

# 香川県中讃方言におけるアスペクト体系

福井彩香

2023（令和5）年1月提出

## 要旨

本研究の目的は、香川県中讃方言におけるアスペクト体系を整理することである。香川県中讃方言では、標準語の「～している」に相当する表現として、ほかの西日本諸方言同様にヨル形、トル形がある。そして、同じ「～している」という表現であってもヨル形で「動作、変化の進行」、トル形で「結果の継続」を表し、対立関係を示す。この香川県下のアスペクト表現に関する先行研究の中で、動詞の分類の不備やアスペクト的意味の記述不足がみられたため、動詞の分類を再確認し、動詞とアスペクト的意味を変数として調査を行った。そして、形態変化の確認のみならず、先の2形式に加えて運動のひとまとまり性を示すスル形の3つの形式がそれぞれ対立する、3項対立型アスペクトであることや、先行研究では記述されていなかった意味の使用状況や意味領域を確認した。このように、先行研究では不十分であった、形式と機能の面から香川県中讃方言のアスペクト体系をある程度網羅的に記述した。

# 目次

1. はじめに	1
2. 対象とする方言	2
2.1. 方言区画	2
2.2. 音素	3
2.3. 形態音韻交替	4
3. 先行研究	5
3.1. これまでの定説	5
3.1.1. ヨル形とトル形の使い分け	5
3.2. 定説の問題点	7
3.3. 解決に向けて	10
4. 調査	12
4.1. 調査概要	12
4.2. 調査結果	13
4.2.1. <完成>	14
4.2.2. <直前>	16
4.2.3. <反復習慣>	18
4.2.4. <未遂>	21
4.2.5. <進行>	22
4.2.6. <結果>	27
4.2.7. <痕跡>	29
4.2.8. <効力>	30
4.2.9. <特性>	33
5. 考察	33
5.1. 中讃方言のアスペクト体系	33
5.2. <直前>の意味領域について	34
6. おわりに	36
参照文献	38
グロス一覧・記号一覧	39
付録 1. 調査例文 (S 氏)	40
付録 2. 調査例文 (M 氏)	57
付録 3. 調査例文 (H 氏)	73

## 1. はじめに

本研究の目的は、香川県中讃方言において用いられているアスペクト表現を整理しその体系を記述することである。香川県中讃方言では、標準語の「～している」に相当する表現として、ヨル形、トル形（本研究では、アスペクトを示す形態素-*jor*, -*tor* を含んでいる語形をそれぞれヨル形、トル形とする。）がある。（1）のように、*akejoru*, *aketoru* は標準語ではともに「開けている」に相当する<sup>1</sup>。前者では父が窓を開けている最中であること、つまり主体による＜動作の進行＞を示し、後者では主体の動作が既に終わり、窓が開け放された状態にあること、つまり＜結果の継続＞を示す。このように、同じ「～している」に相当する表現であるものの、ヨル形、トル形は対立関係にあり、ヨル形が進行、トル形が結果を示す役割を担っている。

(1)	<i>titiga</i>	<i>madoo</i>	<i>{akejoru/aketoru}.</i>
	<i>titi=ga</i>	<i>mado=o</i>	<i>ake- {jor/tor}-ru</i>
	父=NOM	窓=ACC	開ける-{PROG/PF}-NPST
「父が窓を開けている。」			

香川県中讃方言のアスペクト体系を調査したところ、ヨル形、トル形のほかにスル形（以下、形態素-*sur* を含んでいる語形をスル形とする。）が対立しており、それらの形式が担っている意味をまとめたものが（2）である。

- (2) a. スル形の持つアスペクト的意味 完成（ひとまとまり性・限界達成性）  
直前（開始限界直前の段階）  
反復習慣（運動の反復・習慣性）
- b. ヨル形の持つアスペクト的意味 直前（開始限界直前の段階）  
反復習慣（運動の反復・習慣性）  
未遂（開始直前での未達成）  
進行（過程の進行・継続）
- c. トル形の持つアスペクト的意味 進行（過程の進行・継続）  
結果（必然的な変化結果）  
痕跡（形跡から運動を推定）  
効力（先行時の運動の影響の残存）

<sup>1</sup> 右に参照文献を記述していない例文は全て筆者の作例である。

## 2. 対象とする方言

本節では、対象とする方言の地域や音素、形態音韻交替について記述する。

### 2.1. 方言区画

四国の広域地図を図 1、香川県全体の方言区画と本研究で対象とする中讃地域を図 2 にそれぞれ示す。

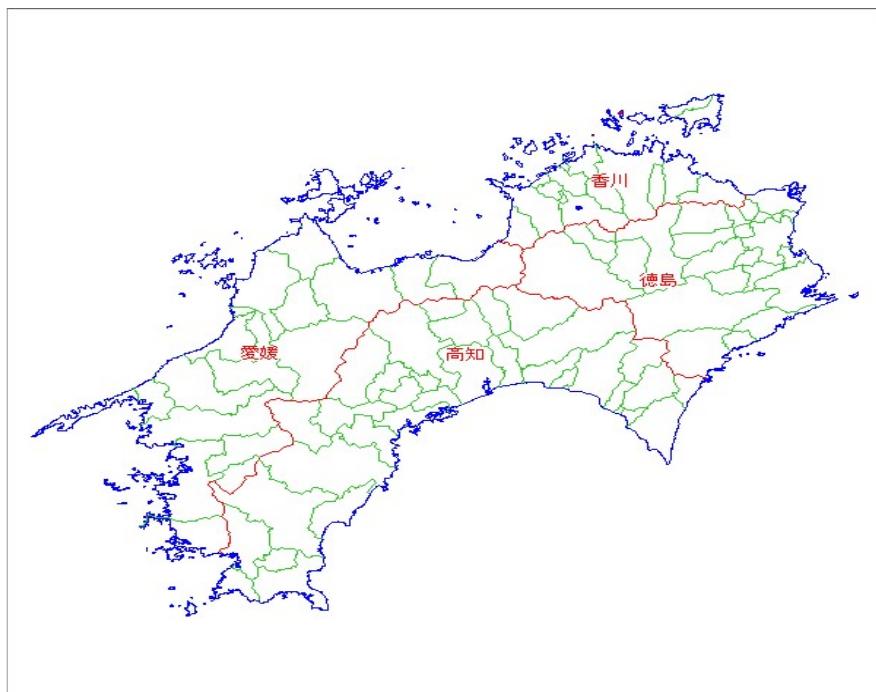


図 1. 四国地方の地図

[Kenmap ver9.2.を用いて作成]



図2. 香川県の方言区画と中讃地域

[乙武 (2019) を参考に Kenmap ver9.2. を用いて作成]

香川県は東讃、中讃、西讃、そして島嶼部の4区画に分かれている。本研究では筆者の出身地域でもある中讃地域を対象とした。

## 2.2. 音素

中讃方言の音素を、木野田 (1982: 384) をもとに作成した表1と表2に示す。

表1. 子音音素表

	両唇	歯茎	硬口蓋	軟口蓋	口蓋垂	声門
破裂音	p b	t d		k g	Q	
摩擦音		s z				h
鼻音	m	n			N	
ふるえ音		r			R	
接近音	w		j			

[木野田 (1982: 384) をもとに作成]

表2. 母音音素表

	前舌	後舌

狭	i	u
半狭	e	o
広		a

[木野田 (1982: 384) をもとに作成]

### 2.3. 形態音韻交替

ヨル形、トル形の形態音韻交替について、本研究の調査票で使用した動詞例を用いて確認する。動詞は活用が被らないように抜粋した。確認できた形式が表 3 である。

表 3. ヨル形、トル形の語形

動詞	ヨル形	トル形
漕ぐ (ガ行五段)	/kongjoru/	/koQgjoru/
踊る (ラ行五段)	/odonzjoru/	/odoQrjoru/
住む (マ行五段)	/suNmjoru/	/sumijoru/
行く (カ行五段)	/iQkjoru/	/iQtoru/
運ぶ (バ行五段)	/hakoNbjoru/	/hakoNdoru/
死ぬ (ナ行五段)	/sinijoru/	/siNnjoru/
燃やす (サ行五段)	/mojaQsjoru/	/mojasitoru/
通う (ワ行五段)	/kajojioru/	/kajoQtoru/
立つ (タ行五段)	/taQtoru/	/taQtoru/
来る (カ変)	/kjoRru/	/kijoru/
する (サ変)	/sijoru/	/sjoRru/
似る (ナ上一)	/nijoru/	/nitoru/
開ける (カ下一)	/akejoru/	/aketoru/

[調査票から抜粋]

この音韻交替に関する先行研究として高橋 (1991, 1992) がある。高橋 (1991: 24) によると、ヨル形、トル形は「「動詞の連用形」に「オル (居る)」」が直接結び付くいいかたと、接続助詞「テ」を介して「オル」が続いていくいいかた」であるとされている。これらを基本の形として、様々な音韻変化が起こっている。

まずヨル形に着目したとき、高橋 (1992: 137) によると、/sijoru/や/akejoru/のように、基本形に半母音 [j] が挿入される場合と、/kjoRru/のように拗長音音節が生成される 2 パターンに分かれる。なお、後者のパターンはカ行変格活用とサ行変格活用のみ該当している。また、/kongjoru/や/iQkjoru/のように撥音と促音を挿入する場合もある。また、ラ行五段活用に限り、/odonzjoru/から/odonzjoru/となる。これは、もとは [r] だった部分が

[z] に交替するパターンである。前者の形は本研究では確認できなかったが内省と高橋（1992）では確認できる。次にトル形に着目した時、高橋（1991: 26）によると、基本の形が生成されることで生じる二重母音 [eo] を回避するために [e] が脱落して /kitoru/ や /aketoru/ のようになるという。なお、ここでの-tor については、例えば「（インナーを）着てはいる」「（コートを）着てもいる」と言うとき、内省では /kitoriwasuru/ や /kitorimosuru/ となるため、形態素-te と -oru を分割することはできず、-tor は一つの形態素である。また、/sundoru/ や /iQtoru/ のように撥音や促音を挿入するものが確認できる。そのほか、ガ・バ・マ・ナ行五段活用動詞の場合、[t] が濁音化して [d] になっている。

また、木野田（1982: 389-390）によると動詞によって異なるものの、ヨル形については /kaQschoru/ や /huQrjoru/、/kaNmchoru/ などのように拗音化された形式がいくつか確認されており、トル形については「ガ・ナ・バ・マ行四段動詞に接続する場合は [doru] となる」と述べている。

次に、国立国語研究所（2003: 19）では西讃地域である、香川県観音寺市方言の談話資料をとりあげている。この中でアスペクト表現に関してはヨル形、トル形を基本形として「～トライ」「～ヨライ」が実際に使用されていると述べられている。

そして柴田（1982: 14）によると、全域的に /jaQrjoru/ のような語形が分布しているが、半母音挿入のみの語形である、/jarijoru/ が中讃や他県に多く見られるという。また、明記されていないものの、/jaQrjoru/ の [r] が [z] に交替した形である、/jaQzjoru/ が中讃や東讃に見られるほか、ラ行五段活用動詞である「降る」の場合では /huQrjoru/、/hurijoru/、/huQzjoru/ となるだけでなく、西讃地域では /hunrjoru/、島嶼部にあたる小豆島では /hurijoru/ が用いられるともされている。また、トル形の場合では、/jaQtoru/ のような語形が一般的と述べられている。

### 3. 先行研究

本節では、これまでの先行研究の記述とそれらの問題点、そしてそれらを解決するためには必要な変数を記述する。

#### 3.1. これまでの定説

これまで調査された香川県のアスペクト表現については木野田（1982）、国立国語研究所（2003）、柴田（1982）で記述が確認できる。これらは中讃地域に限定したものではなく、県全域、もしくは中讃地域以外の地域に注目した研究である。

##### 3.1.1. ヨル形とトル形の使い分け

木野田（1982: 389）では、アスペクトは県下の文法調査の一環で調査されており「進行態はヨルで、完了態はトルで表される。ただし、急ぐ、恥じる、燃えるなどのように、動

詞によっては、トルも進行態を表す場合もある」と述べられている。また、国立国語研究所 (2003: 19) では「全編に、進行態として「～ヨル」、結果態として「～トル」がある」とだけある。しかし柴田 (1982) はこれらと異なり、アスペクト単体に着目した研究であり、より詳細に書かれている。

柴田 (1982) ではヨル形、トル形に着目して使用状況を調査し、その結果をもとに調査に使用した動詞を表 4 のようにグループ分けしている。なお、ここでの対象地域は香川県全域に加え、岡山や広島といった近隣地域も含まれている。

表 4. 柴田 (1982) で使用した動詞のグループ

	動詞例
①	(犬が) おる、(本箱が) ある
②	(ナイフが) 切れる、(英語が) できる
③	しばぬける、ありふれる、似る
④	鳴く、吹く、泳ぐ、読む、行く
⑤	やむ、死ぬ、点く、(恋人が) できる、卒業する
⑥	(山が) 見える

[柴田 (1982: 15-17) をもとに作成]

柴田 (1982: 15) によると、①ではほとんどヨル形、トル形を使用せず、②では状態の意でヨル形を用いるとされている。また、②においてはトル形を進行や完了などの意で用いるという回答があったが、これは他の動詞と混同した結果であり、実際には *tor* はほぼ用いられず、③では②とは異なり、トル形において状態の意を示し、ヨル形はほぼ用いられない動詞であった。また、柴田 (1982: 16) によると、④はヨル形、トル形ともに進行を示す動詞グループであり、容認度に差はなく、結果を表すものにはトル形が使用されるほか、「ヨンドル」「イキヨル」というようにヨル形を用いて反復進行、継続の意を示す、ともされている。⑤については、柴田 (1982: 17) によると、④同様 2 形式を用いるが、動詞が持つ「語彙的意味における過程」の長短によって意味が変化するとされている。つまり、柴田 (1982: 17) では、過程が長いものは進行、短いものは運動の達成前を示す将現、そしてそもそも過程として考えられないものは使用せずという結果を提示している。最後に⑥では、2 形式ともに用い、これらは中和しているという結果になっている。これらを踏まえた結果として、柴田 (1982: 17-18) によると、「香川方言におけるアスペクト表現は、調査の範囲内については多少のヴァライティーを示しながら大局は西日本方言の枠内におさまっている」と述べられており、トル形は「状態の継続」、ヨル形は「動作の進行」を表している。このように、進行の意で 2 形式が中和すること、結果や将現、反復といった意味があることが確認されており、香川県方言が西日本諸方言の 1 種で

あることを示している。

香川県のアスペクト表現について、機能面では以上の先行研究が確認されているが、これらには問題点がある。

### 3.2. 定説の問題点

先行研究の大きな問題点として、「形式、機能の面での網羅的な記述がない」ことがあげられる。形式の面では、3.1.1. 節であげたようにいくつかの形式をとりあげているが、形態変化や交替を記述していない。また機能の面では問題点が2点ある。

まず1点目としては、先行研究の中では柴田（1982）に詳細な記述があるが、アスペクトの意味が内省と一致しておらず、内省では存在する意味が先行研究からは確認できない点である。しかし、それらは愛媛県宇和島方言のアスペクト体系を記述している工藤（2014）で詳述されており、意味をまとめたものが(3)になる。

#### (3) <ショル>—完成（終了）前の過程段階

- ① 動作進行—主体動作動詞ではシトルとの中和あり
- ② 変化進行—主体変化動詞にみられる
- ③ 直前—開始限界達成前の段階を示す
- ④ 未遂—実現の直前まで至るも、結局実現しなかった用法
- ⑤ 反復—繰り返し起こる動作や変化を示す

#### <シトル>—変化達成後の結果を示す

- ⑥ 結果—必然的な変化の結果を表す
- ⑦ 動作パーフェクト（痕跡・効力）—達成後のほか、先行時の動作も捉える
- ⑧ 反実仮想—1回的な事象に限定される
- ⑨ 恒常的特性—ヒトやモノの特性、存在を示す

#### <スル>—変化過程が終わって結果が生じる達成そのものを表す

- ⑩ 完成—運動のひとまとまり、限界達成性
- ⑤ 反復
- ⑨ 恒常的特性

[工藤（2014: 362-383）]

(3)の中で直前、痕跡、効力の3用法について補足する。

まず、直前については解釈が困難な意味とされている。各地の方言分布を参考にこの意味の位置づけを試みた梁井（2014: 224）では直前を「事態開始直前の状態を捉える用法」としている。形式については、方言によってはヨル形だけではなく/sijoRtosjoRru/を用いるものがあると梁井（2014: 230）で述べられている。また梁井（2014: 230-233）で

は、変化が達成されるまでの過程を捉えようとすると、進行との境界が曖昧であるために分別が困難となり、話者によっては両義的な解釈を可能としてしまうと述べている。また、梁井（2014: 234）によると、この用法は話し手によってその運動が達成されつつあるという、「兆候の知覚」を要件としており、この兆候を捉えやすい状況を設ければ、よりこの意味を表せられるのではとしている。次に、痕跡という用法は工藤（2014: 380-381）によると、話者が先行時の動作や変化の形跡を知覚し、その形跡から間接的に推定するものとされている。また、効力については工藤（2014: 382）によれば、話者が記憶から出した、先行時の動作や変化の完成と、それによってそのあと与えられた影響とを結びつける用法としている。先行研究ではこれらの意味に加え、未遂、反実仮想、恒常的特性、完成について確認されていないため、これらについて調査する必要がある。

また、いずれの先行研究の調査結果もヨル形とトル形のみあげられているが、内省ではスル形もあり、それぞれが対立関係にある。網羅的に記述するためには、ヨル形とトル形の使い分けのみならず、意味を変数として調査する必要があるが、柴田（1982）や木野田（1982）ではヨル形とトル形の使い分けを前提としているために意味を変数に組み込んでいたとしても、スル形が調査結果に出なかったと推測される。そのためこれも網羅的に考慮されていない点の1つである。なお、この対立関係については工藤（1995, 2014）で「3項対立型アスペクト」であると述べられている。これは西日本諸方言にみられ、工藤（1995）では愛媛県宇和島方言を例にとって記述している。そもそも2形式の対立について工藤（1995: 264）では、運動の終了限界をめぐり＜限界達成前＞ないし＜限界達成後＞のうちどちらの段階を捉えるかによって対立していると述べられている。これについて表5で示す。

表5. ヨル形とトル形の対立

	段階	用法	動詞例
ショル	終了限界達成前	動作過程の進行・継続性	破りよる・歩きよる・開けよる・たたきよる・建てよる・食べよる
		変化過程の進行・継続性	来よる・死による・終わりよる
シトル	終了限界達成後	結果状態の継続性	破つとる・開けとる・建てとる・来とる・死んどる
		形跡の残存性	歩いとる・たたいとる
		限界達成後	終わつとる・食べとる

[工藤（1995: 264）]

そして、スル形を含む3つの形式については表6のようなテンス体系を持ち、(4)のように対立する<sup>2</sup>。

表6. スル形、ヨル形、トル形のテンス体系

	完成	不完成相	パーフェクト相
未来	スル（スル形）	ショル（ヨル形）	シトル（トル形）
現在		ショル	シトル
過去	シタ	シトッタ	シトッタ

[工藤 (1995: 267) ]

(4) 来年の3月には、新校舎が建つよ。<限界達成性>

来年の3月には、新校舎が建ちよるよ。<限界達成前の段階（進行過程）>

来年の3月には、新校舎が建つとるよ。<限界達成性後の段階（結果）>

[工藤 (1995: 265) ]

工藤 (1995: 265) では、ヨル形が限界達成前、トル形が限界達成後、そしてスル形が運動そのものをひとまとまりとして捉えるか、その限界達成性自体を捉えている、としている。しかし、工藤 (1995: 272-276) によると、全ての動詞にこの対立関係はあてはまらず、大半の運動動詞に限り、「思う、困る」といった状態性動詞はスル形に言い換えることができず、ヨル形とトル形も中和するほか、「そびえている、ありふれとる」といった動詞では使用はトル形のみとなると述べられている。これが3項対立型アスペクトの仔細となる。先行研究ではこうしたテンス体系も確認されておらず、こうした点も考慮して調査を行う必要がある。

また2点目の問題として、「動詞の分類方法が先行研究によって統一性がない」という問題がある。例えば木野田 (1982) では2形式がどちらも進行を示す例としていくつかの動詞をあげているが、どういった動詞グループの条件に当てはまるかが記述されていない。また、柴田 (1982) ではそれらを調査しているものの、主体動作動詞の「泳ぐ」と主体変化動詞の「行く」が同じ動詞グループとなっており、分類をするうえで動詞の本来持つ意味が考慮されていない。これは動詞の持つ意味ではなく、形式の使用可否で調査を行ったためと考えられ、これを考慮する必要がある。

<sup>2</sup> このテンス体系は愛媛県宇和島方言のものであるが、香川県中讃方言の話者である筆者の内省と同様のものであったために参照した。

### 3.3. 解決に向けて

これらの問題点を解決すべく、本研究では動詞とアスペクトの意味を変数として調査を行うこととする。そのために、まず工藤（1995, 2014）で示されている動詞の分類と意味を使用する。工藤（1995: 69）では、アスペクト研究においては文法的アスペクト対立が抽象的であるために語彙的意味によって具体化されるからであって、そのためにその意味の一般化を行い、動詞分類をする必要があると述べられている。工藤（1995: 70）では、現代日本語の動詞をものの運動を時間の中で捉える＜運動動詞＞、時間的展開がなく、特性や存在などを捉えている＜静態動詞＞、そして、時間的展開性はあるものの、思考や知覚といった、人の内的事象を捉えている＜内的静態動詞＞の3つに大きく分けている。先述した、＜状態性動詞＞はこの＜内的静態動詞＞に該当する。その上で、運動動詞を「動作か変化」、「主体か客体」の2つの観点から表7のように下位分類を行っている。

表7. 運動動詞の下位分類の特徴

	限界性	主な特徴	自他	動詞例
主体動作客体変化	内的時間限界	能動一動作継続 受動一結果継続	他	開ける、折る、 消す、並べる
主体変化	内的時間限界		自	行く、折れる、 入る、就職する
主体動作	非内的時間限界	動作	他・自	動かす、押す、 食べる、飛ぶ

[工藤（1995: 72-73）をもとに作成]

限界性に注目した時、内的時間限界は運動が終了し達成されるとみなされる、ある段階が明確に存在し、一方の非内的時間限界とは、その達成の段階が曖昧であるという特徴を持つ。例えば、主体動作動詞「書く」であれば、単に「書く」だけでは何を以て終了とするか不明なため、「100字書く」「5枚分書く」というように、動詞の意味とは別の要素を外から加えて終了段階を設定する必要がある。そのため、主体動作動詞はこの曖昧な終了限界ではなく、動作が開始される時点に焦点が当てられたり、動作そのものがひとまとめりとして捉えられたりする。

また、主体動作客体変化動詞については工藤（1995: 82-83）によると、同じ動詞を用いても主体の意志性の有無によって動作継続か結果継続に分かれるという。これについては工藤（1995: 83）において「アスペクト的なものは意志性の有無とムード的なもの、他動性の有無というヴォイス的なものと相關している」と述べている。本研究では、こうした意志性の有無や自他も考慮して調査票を作成し変数の1つに組み込んでいる。

次に、2つ目の大きな変数としてとりあげたアスペクトの意味については、工藤

(2014) でとりあげられていた以下の意味を調査対象とした。

表 8. 調査対象の意味

完成	反復習慣	直前	未遂
進行	結果	痕跡	効力
特性			

[工藤 (2014: 363-373) をもとに作成]

なお、工藤 (2014) では反実仮想にも触れられているが、本研究では調査を行うことができなかつたため、含めていない。

また調査のために、動詞が持つ時間構造を明確に定義づけする必要がある。この時間構造をもとにして西日本諸方言の体系整理を試みている鴨井 (2020) があげられる。鴨井 (2020: 225) によると、アスペクト体系を記述する上で、進行相を持つ命題は将然・進行・結果の3つの相と、開始兆候点・開始点。終了点・結果終了点の4つの点を持つ一方で、進行相を持たないものは開始点と終了点に区別がなく、進行相がなく将然相から結果相に至るという特徴を持つとされている。これらをもとに体系整理を試みているものの、明確な定義が記されていないためにこれらの参照点と相との境界が曖昧となっている。そのため、本研究では鴨井 (2020) のラベルをある程度踏襲し、時間構造に関する定義を表9のように設定する。

表 9. 設定した時間構造

開始点	主体による動作や変化が明確に開始されたとみなすことができる地点 (曖昧ではあるものの、将然相と進行相の境界に相当)
将然相	動作や変化が開始される以前の段階
進行相	動作や変化の過程が進行している段階
結果相	動作や変化が達成し終了した後の段階
終了点	動作や変化が達成し終了した地点 (主体動作動詞では、外部要因を付与した場合の地点)

そもそも、開始兆候点と結果終了点は、開始点以上に動詞の持つ意味のみでは図ることができず、話者の個人差に依るところがあるため、ここでは扱わないこととする。

このように、工藤 (1995, 2014) で使用されている動詞の分類やアスペクトの意味を変数として用い、香川県中讃方言のアスペクト体系を整理し、そのなかでどのような対立関係があるのか、テンスの体系や人称制限、形態変化も確認することが本研究の目的となっている。

## 4. 調査

本節では、本研究の調査方法とそれぞれのアスペクト的意味での調査結果を記述する。

### 4.1. 調査概要

話者は S 氏（女性/80 代）、M 氏（女性/70 代）、H 氏（女性/70 代）の 3 名に対し、調査票を用いた電話調査によって行った。3 名とも香川県丸亀市出身で、S 氏は県外在住歴がなく丸亀市在住である。また、H 氏と M 氏は 19~20 歳の時それぞれ東京と大阪に在住歴を持ち、現在は坂出市と丸亀市にそれぞれ在住している。

事前調査において、香川県中讃方言が愛媛県宇和島方言の 3 項対立型アスペクトであること、工藤（1995）で用いられた動詞が使用可能であること、アスペクトの意味の使用を確認できたため、工藤（1995, 2014）で示された動詞分類と意味を変数として、表 10 のような動詞分類を用いて調査票を作成し調査を行った。なお、意志性の判断と自他の有無は工藤（1995）を参考にした。

表 10. 調査に用いた動詞

	開始限界	終了限界	内的限界	意志性	自他	動詞例
主体動作客体動き	+	+	-	+	他	燃やす
主体動作	+	+	-	+	他	食べる
主体動作	+	+	-	+	自	遊ぶ
長期的動作	+	-		-		住む
動き	+	+	-		自	降る
主体変化主体動作	+	+	+		自	着替える
主体変化	+	+	+		自	出る、行く
主体変化	+	+	+		自	死ぬ、落ちる
主体動作客体変化	+	+	-		他	開ける、落とす
存在	-	-				ある、いる
心理・知覚	+	-				考える、

						聞こえる
関係	—	—				似る
特性	+	—				泳げる

[工藤 (1995: 73-77) ]

## 4.2. 調査結果

調査の結果、それぞれの意味と形式をまとめたものが(5)である。

- (5) a. スル形の持つアスペクト的意味 完成（ひとまとまり性・限界達成性）  
直前（開始限界直前の段階）  
反復習慣（運動の反復・習慣性）

b. ヨル形の持つアスペクト的意味 直前（開始限界直前の段階）  
反復習慣（運動の反復・習慣性）  
未遂（開始直前での未達成）  
進行（過程での進行・継続）

c. トル形の持つアスペクト的意味 進行（過程の進行・継続）  
結果（必然的な変化結果）  
痕跡（形跡から運動を推定）  
効力（先行時の運動の影響の残存）  
特性（人・モノの恒常的特性）

また、テヌスについては表 11 のような結果となった。

表 11. 中讃方言のテンス体系

	スル形	ヨル形	トル形
非過去	/suru/	/joru/	/toru/
過去	/sita/	/joQta/	/toQta/

テンスについては以上のように非過去、過去の2パターンが表れた。具体的な結果はそれぞれの意味の中で記述する。

以下、なぜこのような結果になったのか、具体的な意味を記述する。4.2.1. 節で完成、4.2.2. 節で直前、4.2.3. 節で反復習慣、4.2.4. 節で未遂、4.2.5. 節で進行、4.2.6. 節で結果、4.2.7. 節で痕跡、4.2.8. 節で効力、4.2.9. 節で特性をとりあげる。

#### 4.2.1. <完成>

<完成>は動作や変化といった運動そのものをある時点で区切らずひとまとまりとして捉えたり、その運動が開始、終了する、いわゆる限界達成を示したりする用法である。運動動詞と心理動詞、知覚動詞、特性動詞を用いて調査を行ったところ、全ての動詞においてスル形を用いるという回答が得られた。テンスに関しては、非過去で/suru/、過去で/sita/を確認した。以下、動詞別に調査結果を記述する。

まず主体動作動詞、動き動詞においては終了限界が曖昧のため、以下のように主体の動作の開始限界達成性を示す。また、運動ひとまとまりの完成性も示す。

(6)	<i>a, inuga</i>	<i>esao</i>	<i>tabela.</i>
	<i>a inu=ga</i>	<i>esa=o</i>	<i>tabe-ta</i>
	FIL 犬=NOM	餌=ACC	食べる-PST
	「あ、犬が餌を食べた。」 (開始限界達成性)		

(7)	<i>watasiwa</i>	<i>kuzini</i>	<i>juRsjokuo</i>	<i>taberu.</i>
	<i>watasi=wa</i>	<i>kuzi=ni</i>	<i>juusjoku=o</i>	<i>tabe-ru</i>
	私=TOP	9時=DAT	夕食=ACC	食べる-NPST
	「私は9時に夕食を食べる。」 (ひとまとまり)			

(8)	<i>taroRwa</i>	<i>gozjuRmeRtoru</i>	<i>ojoida.</i>
	<i>taroo=wa</i>	<i>gozjuumeetoru</i>	<i>ojog-i-ta</i>
	太郎=TOP	50メートル	泳ぐ-THM-PST
	「太郎は50メートル泳いだ。」 (ひとまとまり)		

(9)	<i>raineN</i>	<i>hanakowa</i>	<i>hukuokani</i>	<i>sumu.</i>
	<i>rainen</i>	<i>hanako=wa</i>	<i>hukuoka=ni</i>	<i>sum-ru</i>
	来年	花子=TOP	福岡=DAT	住む-NPST
	「来年花子は福岡に住む。」 (ひとまとまり)			

(10)	<i>a, hikoRkiga</i>	<i>tonda.</i>
	<i>a hikooki=ga</i>	<i>tob-i-ta</i>
	FIL 飛行機=NOM	飛ぶ-THM-PST
	「あ、飛行機が飛んだ。」 (開始限界達成性)	

主体動作客体変化動詞では、客体の変化終了限界がはっきりしているため、終了限界達成性とひとまとまり性を示す。

- (11) *kinoR hanakowa tebukuroo anda.*  
 kinou hanako=wa tebukuro=o am-i-ta  
 昨日 花子=TOP 手袋=ACC 編む-THM-PST  
 「昨日花子は手袋を編んだ。」 (終了限界達成性)

- (12) *asita titiga niwani sakurao ueru.*  
 asita titi=ga niwa=ni sakura=o ue-ru  
 明日 父=NOM 庭=DAT 桜=ACC 植える-NPST  
 「明日父が庭に桜を植える。」 (ひとまとまり)

主体変化主体動作動詞、主体変化動詞においては、意志性の有無にかかわらず他の動詞と同様の結果となり、終了限界達成性と運動のひとまとまりを示す。

- (13) *tarooRwa saQki suRtuo kita.*  
 taroo=wa sakki suutu=o ki-ta  
 太郎=TOP さっき スーツ=ACC 着る-PST  
 「太郎はさっきスーツを着た。」 (終了限界達成性)

- (14) *asita karewa toRkjoRni iku.*  
 asita kare=wa toukjou=ni ik-ru  
 明日 彼=TOP 東京=DAT 行く-NPST  
 「明日彼は東京に行く。」 (ひとまとまり)

- (15) *kinoR karewa ieni kaeQta.*  
 kinou kare=wa ie=ni kaer-i-ta  
 昨日 彼=TOP 家=DAT 帰る-THM-PST  
 「昨日彼は家に帰った。」 (終了限界達成性)

- (16) *kono hanawa sugu kareru.*  
 kono hana=wa sugu kare-ru  
 この 花=TOP すぐ 枯れる-NPST  
 「この花はすぐ枯れる。」 (ひとまとまり)

- (17) *saQki*            *gohanga*            *taketa.*  
       *sakki*            *gohan=ga*            *take-ta*  
       さっき            ご飯=NOM            炊ける-PST  
       「さっきご飯が炊けた。」 (終了限界達成性)

心理動詞、知覚動詞、特性動詞においてもスル形を用いて表し、ひとまとまり性を示すという回答が得られた。テンスについては他の動詞同様の結果となった。

- (18) *jaQto*    *huega*            *{huketa/hukeru}.*  
       *jatto*      *hue=ga*            *huke- {ta/ru}*  
       やっと 笛=NOM            吹ける-PST/吹ける-NPST  
       「やっと笛が吹ける/吹けた。」 (ひとまとまり)
- (19) *watasiwa*    *ieni*      *kaeroRto*            *omou.*  
       *watasi=wa*    *ie=ni*      *kaer-oo=to*            *omow-ru*  
       私=TOP            家=DAT 帰る-INT=QUOT            思う-NPST  
       「私は家に帰ろうと思う。」 (ひとまとまり)
- (20) *taikono*    *otoga*            *{kikoeru/kikoeta}.*  
       *taiko=no*    *oto=ga*            *kikoe-ru/kikoe-ta*  
       太鼓=GEN            音=NOM            聞こえる-NPST/聞こえる-PST  
       「太鼓の音が聞こえる/聞こえた。」 (ひとまとまり)

#### 4.2.2. <直前>

直前に関しては、運動動詞においては基本的にスル形を用い、主体変化動詞(意志性無)においてはヨル形も用いることができるという回答が得られた。また、一人称と未来形で用いることはできなかった。*/sijoRtosjoRru/*については意志性がある動詞のみ使用可能だった。また、そもそも直前は進行との連続性があるため、その境界が曖昧である。そのため、まず話者が想定した状況が何かを聞き、それを踏まえて「明確に事態の開始直前であると言える状況～明確に過程の進行を表す状況」までに横たわるいくつもの状況における使用状況を調査した。これによって、スル形とヨル形を用いる上での境界をより明らかにすることを試みた。その結果、話者によって境界に多少の差異はあるものの、(26)や(27)といった、意志性を持たない主体変化動詞においてのみヨル形を用いることが出来るという結果が得られた。また、一部の例文の状況設定については 5. 考察にて後述する。

(21)	<i>karega</i>	<i>gomi</i>	<i>{mojasu/*mojaQsjoru/*mojasitoru}nkana.</i>
	<i>kare=ga</i>	<i>gomi</i>	<i>mojas-ru=no=ka=na</i>
	<i>彼=NOM</i>	<i>ごみ</i>	<i>燃やす-NPST=FMN=Q=SFP</i>

(彼がごみを集めていた理、マッチに火をつけていたりする状況)

「彼がごみ燃やそうとしている。」

(22)	<i>taroRga</i>	<i>puRrude</i>	
	<i>taroo=ga</i>	<i>puuru=de</i>	
	<i>太郎=NOM</i>	<i>プール=LOC</i>	

*{ojogu/\*ojoQgjoru/\*ojoidoru}nja/ojogoRtosjoRru.*

*ojog-ru=no=jar-Ø /oyog-oo=to=si-jor-ru*

*泳ぐ-NPST=FMN=COP-NPST/泳ぐ-INT=QUOT=する-PROG-NPST*

(水着を着てプールサイドにいる状況、プールに入っているだけの状況)

「太郎がプールで泳ごうとしている。」

(23)	<i>amega</i>		
	<i>ame=ga</i>		
	<i>雨=NOM</i>		

*{huQtekisou/hurisoR}jana/{\*huQrjoru/\*huQtoru}na.*

*hur-te=ki-soo=ja=na/hur-i-soo=ja=na*

*降る-SEQ=来る-SEM=COP=SFP/降る-THM-SEM=COP=SFP*

(雲が空を覆い、空気がじめじめしている状況)

「雨が降ろうとしている。」

(24)	<i>titiga</i>	<i>madoo</i>	
	<i>titi=ga</i>	<i>mado=o</i>	
	<i>父=NOM</i>	<i>窓=ACC</i>	

*akejoRtosjoRru/{akeru/\*akejoru/\*aketoru}nkana.*

*ake-joo=to=si-jor-ru/ake-ru=no=ka=na*

*開ける-INT=QUOT=する-PROG-NPST/開ける-NPST=FMN=Q=SFP*

(窓の鍵を開けていたり、窓に手を掛けたりしている状況)

「父が窓を開けようとしている。」

(25)	<i>taroRga</i>	<i>kimono</i>
	<i>taroo=ga</i>	<i>kimono</i>
	太郎=NOM	着物

*kijoRtosjoRru/{kiru/\*kijoru/\*kitoru}nkana.*  
*ki-joo=to=si-jor-ru/ki-ru=no=ka=na*  
 着る-INT=QUOT=する-PROG-NPST/着る-NPST=FMN=Q=SFP  
 (着物に袖を通していたり、着物を広げていたりする状況)  
 「太郎が着物を着ようとしている。」

(26)	<i>okaRsaN</i>	<i>kotatuni</i>	<i>{haiQrjoru/*haiQtoru}/hairuna.</i>
	<i>okaasan</i>	<i>kotatu=ni</i>	<i>hair-i-jor-ru/hair-ru=na</i>
	お母さん	炬燵=DAT	入る-THM-PROG-NPST/入る-NPST=SFP
	(こたつの布団をめくっていたり、足を入れようとしていたりする状況)		
	「お母さん、こたつに入ろうとしている。」		

(27)	<i>a,</i>	<i>saraga</i>	<i>otirujo/{oQtjoru/*oQtoru}.</i>
	<i>a</i>	<i>sara=ga</i>	<i>oti-ru=jo/oti-jor-ru</i>
	FIL	皿=NOM	落ちる-NPST=SFP/落ちる-PROG-NPST
	(皿が机からほぼ出ていたり、人の腕が当たりそうになつたりしている状況)		
	「あ、皿が落ちそうになっている。」		

#### 4.2.3. <反復習慣>

<反復習慣>では、運動動詞と心理動詞、知覚動詞において、基本的にはスル形ないしヨル形を用いるが、一部トル形を用いる話者もいるという結果が得られた<sup>3</sup>。第一回答は話者3名ともヨル形だった。また、調査票作成の上で、「毎日」「よく」といった、習慣の意を持たせる語を使用した。人称については制限なかった。テンスについては、基本的に非過去、過去においてスル形、ないしヨル形の使用が確認できた。しかし一部の動詞に関して非過去の場合、解釈困難としてヨル形を容認できないとの回答があった。その為、(28)で全ての時制における使用状況を記し、他の例文は現在のみの記載とする<sup>4</sup>。また、スル形は全ての動詞に使用できたため、動詞別の記述における最初の例文にのみ記す。

<sup>3</sup> 話者の内、S氏とM氏はほぼヨル形を用いていたが、H氏は動詞の種類に関わらず、一部ヨル形とトル形が中和していた。

<sup>4</sup> 付録にて、「鳴らす」以外の動詞の非過去、過去における結果を示している。

まず、主体動作動詞、動き動詞では3名ともヨル形とスル形を用いて表され、自動詞、他動詞ともに同様の結果となった。

(28)	<i>karewa</i>	<i>joR</i>	<i>jubio</i>
	<i>kare=wa</i>	<i>joo</i>	<i>jubi=o</i>
	彼=TOP	よく	指=ACC

*{narasu/naraQsjiro/\*narasitoru}/{narasita/naraQsjoQta}/*  
*{narasujaroR/naraQsjirojaroR}.*  
*{naras-ru/naras-i-jor-ru}/{naras-i-ta/naras-i-jor-ta}/*  
*{naras-ru=jar-oo/naras-i-jor-ru=jar-oo}*  
*{鳴らす-NPST/鳴らす-THM-PROG-NPST}/{鳴らす-THM-PST/鳴らす-THM-PROG-PST}/{鳴らす-NPST=COP-INFR/鳴らす-THM-PROG-NPST=COP-INFR}*  
「彼はよく指を鳴らしている/鳴らしていた/鳴らしているだろう。」

(29)	<i>watasiwa</i>	<i>maisjuR</i>
	<i>watasi=wa</i>	<i>maisjuu</i>
	私=TOP	毎週

*gitaRkjoRsituni* {*kajou/kajojioru/\*kajoQtoru*}.  
*gitaakjousitu=ni* *kajow-ru/kajow-i-jor-ru*  
*ギター教室=DAT* 通う-NPST/通う-THM-PROG-NPST  
「私は毎週ギター教室に通っている。」

(30)	<i>koko</i>	<i>itumo</i>	<i>tujoj</i>	<i>kazega</i>	<i>{huku/huQkjiro/*huitoru}</i> .
	<i>koko</i>	<i>itumo</i>	<i>tujoj</i>	<i>kaze=ga</i>	<i>huk-ru/huk-i-jor-ru</i>
	ここ	いつも	強い	風=NOM	吹く-NPST/吹く-THM-PROG-NPST
					「ここはいつも強い風が吹いている。」

主体動作客体変化動詞においても、話者3名ともヨル形とスル形が用いられていた。しかし、話者によってはヨル形とイメージは異なるが、トル形も用いるという結果も得られた。これについては5章にて後述する。

(31)	<i>maiasa</i>	<i>kanozjoga</i>	<i>madoo</i>	<i>{akeru/akejoru/*aketoru}</i> .
	<i>maiasa</i>	<i>kanozjo=ga</i>	<i>mado=o</i>	<i>ake-ru/ake-jor-ru</i>

毎朝 彼女=NOM 窓=ACC 開ける-NPST/開ける-PROG-NPST  
「毎朝彼女が窓を開けている。」

- (32) *ano inuwa itumo niwao* {*horu/honzjoru/hoQrjoru/\*hoQtoru*}.  
*ano inu=wa itumo niwa=o* *hor-ru/hor-i-jor-ru*  
あの 犬=TOP いつも 庭=ACC 堀る-NPST/堀る-THM-PROG-NPST  
「あの犬はいつも庭を堀っている。」

また、主体変化動詞においても意志性の有無を問わず 3名とも基本的にヨル形、ないしスル形を用いるという結果が得られた。しかし、「履く」の例において H 氏のみトル形を用い、これとヨル形とは容認度に差がないという結果となったため、(33)は H 氏の回答である。なお、S 氏と M 氏は、(33)では他の動詞同様、スル形とヨル形のみの使用とのことだった。

- (33) *karewa itumo onazi kutuo*  
*kare=wa itumo onazi kutu=o*  
彼=NOM いつも 同じ 靴=ACC

{*haku/haQkjoru/haitoru*}.  
*hak-ru/hak-i-{jor/tor}-ru*  
履く-NPST/履く-{THM-PROG/PF}-NPST  
「彼はいつも同じ靴を履いている。」

- (34) *maiasa karewa sitizini gaQkoRni* {*iku/iQkjoru/\*iQtoru*}.  
*maiasa kare=wa sitizi=ni gakkoo=ni* *ik-ru/ik-i-jor-ru*  
毎朝 彼=TOP 7 時=DAT 学校=DAT 行く-NPST 行く-THM-PROG-NPST  
「毎朝彼は 7 時に学校に行っている。」

- (35) *akini naruto giNnanga* {*otiru/oQtjoru/\*oQtoru*}.  
*aki=ni naru=to ginnan=ga* *oti-ru/oti-jor-ru*  
秋=DAT なる=CND 銀杏=NOM 落ちる-NPST/落ちる-PROG-NPST  
「秋になると、銀杏が落ちている。」

そのほか、心理動詞ではヨル形を第一回答として得られたが、トル形も用いることができる話者もいた。ここで「後輩に怒っている」と「後輩を怒っている」の 2 パターン用意

し調査したところ、話者によって異なる結果が得られた。また、知覚動詞では S 氏のみヨル形を用い、ほかの 2 名はトル形とヨル形を用いた上に、ヨル形の方が、容認度がより高い結果となった。なお、この 2 種の動詞ともにスル形を用いることができた。

- (36) *karewa mainiti koRhaini* {*okoru/okoQrjoru/okonzjoru/okoQtoru*}.  
 kare=wa mainiti kouhai=ni okor-ru/okor-i-{*yor/tor*}-ru  
 彼=TOP 毎日 後輩=DAT 怒る-NPST/怒る-THM-{PROG/PF}-NPST  
 「彼は毎日後輩に怒っている。」

- (37) *karewa mainiti koRhaio* *okor-{i-jor/\*tor}-ru*.  
 kare=wa mainiti kouhai=o okor-i-jor-ru  
 彼=TOP 毎日 後輩=ACC 怒る-THM-PROG-NPST  
 「彼は毎日後輩を怒っている。」

- (38) *berandakara iinojamaga mainiti* {*ziejoru/mietoru*}.  
 beranda=kara iinojama=ga mainiti mie-{*yor/tor*}-ru  
 ベランダ=ABL 飯野山=NOM 毎日 見える-{PROG/PF}-NPST  
 「ベランダから飯野山が毎日見えている。」

#### 4.2.4. <未遂>

<未遂>に関しては、運動動詞においてヨル形のみを用いることができるという回答を得られた。<未遂>は運動の達成直前まで至ったものの、結局実現されなかったという事態を表すため、過去形に限定される。また、動詞の種類に関わらず人称の制限はなかった。そのほか、「もう少しで」という意味の/*oRkata*/をつけたところ、ほとんどの例文で違いは見られず、ヨル形のみを用いるとされたが、一部容認度があがるという結果も得られた。

- (39) *watasi oRkata* *gjuRnjuRo* {*noNmjoQta/\*nondoQta*}.  
 watasi ookata gjuunjuu=o nom-i-jor-ta  
 私 もう少しで 牛乳=ACC 飲む-THM-PROG-PST  
 (主体が牛乳を飲もうとするも、第三者に止められて飲まなかった)  
 「私はもう少しで牛乳を飲むところだった。」

- (40) *aniga oRkata* *gaQkoRni* {*iQkjoQta/\*iQtoQta*}.  
 ani=ga ookata gakkou=ni ik-i-jor-ta  
 兄=NOM もう少しで 学校=DAT 行く-THM-PROG-PST

(学校に行こうとするも、行くのをやめた兄を見て)  
「兄がもう少しで学校に行くところだった。」

(41)	<i>iega</i>	<i>oRkata</i>	<i>{moejoQta/*moetoQta}.</i>
	<i>ie=ga</i>	<i>ookata</i>	<i>moe-jor-ta</i>

家=NOM もう少しで 燃える-PROG-PST

(ボヤ騒ぎがあったものの、家が燃えずに済んだ状況)  
「家がもう少しで燃えるところだった。」

(42)	<i>kugiga</i>	<i>oRkata</i>	<i>{nukejoQta/*nuketoQta}.</i>
	<i>kugi=ga</i>	<i>ookata</i>	<i>nuke-jor-ta</i>

釘=NOM もう少しで 抜ける-PROG-PST

(抜けそうになっていた釘を打ち直した状況)  
「釘がもう少しで抜けるところだった。」

#### 4.2.5. <進行>

<進行>に関しては運動動詞と動き動詞、心理動詞、関係動詞、知覚動詞、特性動詞を用いて例文を作成し調査を行った。以下、動詞の種類別の調査結果を記述するが、話者によって結果が大きく異なるため、本節では最も年齢の高いS氏の調査結果をあげる。

主体動作動詞、動き動詞においては、第一回答は3名ともヨル形であり、S氏とM氏は基本的にヨル形のみ、ないしヨル形の方が容認度は高かった。しかしH氏はほぼすべての例でヨル形とトル形の区別がなく、中和している可能性が示唆された。S氏によると、主体動作動詞（他動詞）「食べる」ではヨル形のみ使用とのことだったが主体動作動詞（自動詞）「泳ぐ」や動き動詞「飛ぶ」では現在のみヨル形、トル形を用い、ヨル形の方が容認度は高かった。加えて、動き動詞「降る」の場合は、現在と過去時制において「飛ぶ」の現在時制と同様の結果となり、未来時制においてヨル形とトル形の区別はなかった。

(43)	<i>kanozjoga</i>	<i>tjuRsjokuo</i>
	<i>kanozjo=ga</i>	<i>tjuusjoku=o</i>

彼女=NOM 昼食=ACC

*{tabejoru/tabejoQta/tabejorujaroR}.*

*tabe-jor-ru/tabe-jor-ta/tabe-jor-ru=jar-oo*

食べる-PROG-NPST/食べる-PROG-PST/食べる-PROG-NPST=COP-INFR

(昼食を食べている最中/食べていたのを思い出して/食べているのを想像して)

「彼女が昼食を食べている/食べていた/食べているだろう。」

- (44) *kanozjoga*      *puRrude*      .  
kanozjo=ga      puuru=de  
彼女=NOM      プール=LOC

{*ojoQgjoru/ojoidoru/ojoQgioQta/\*ojoidoQta/ojoQgjoruwa/\*ojoidoruwa*}.  
ojog- {i-jor/tor}-ru/ojog-i-jor-ta/ojog-i-jor-ru=wa  
泳ぐ- {THM-PROG/PF}-NPST/泳ぐ-THM-PROG-PST/泳ぐ-THM-PROG-NPST=SFP  
(彼女がプールで泳いでいる様子を見て/思い出して/想像して)  
「彼女がプールで泳いでいる/泳いでいた/泳いでいるだろう。」

- (45) *amega*  
ame=ga  
雨=NOM

{*huQrjoru/huQtoru/huQrjoQta/huQtoQta/huQrjorujaroo/huQtorujaroo*}.  
hur-i- {jor/tor}-ru/hur-i- {jor/tor}-ta/hur-i- {jor/tor}-ru=jar-oo  
降る-THM- {PROG/PF}-NPST/降る-THM- {PROG/PF}-PST/  
降る-THM- {PROG/PF}-NSPT=COP-INFR  
(家の外で雨降っているのを見て/思い出して/想像して)  
「雨が降っている/降っていた/降っているだろう。」

主体動作客体変化動詞では、ヨル形のみを用いて表すとの結果が出た。3.3. 節にて、「主体動作客体変化動詞では能動か受動か、によって動作継続か結果継続になる」と述べたが、今回の調査で受動の調査例文を作ることができなかったため、能動文のみ報告する。

話者別でみると、S 氏は現在と過去ではヨル形のみ、未来では「ヨル形のみを用いる場合」と「スル形のみを用いる場合」の 2 パターンに分かれた。また M 氏は現在と過去ではヨル形とトル形両方を用い（容認度ではヨル形の方が高い）、未来ではスル形かヨル形を用いた。そして H 氏は「基本的に 2 形式が中和しており、過去と未来ではヨル形のみ用いる場合」と「ヨル形とトル形を用いるものの、ヨル形の方が、容認度が高い場合」の 2 パターンに分かれた。

そのほか、三人称と一人称の 2 パターンで調査したところ、一人称を用いた場合、一部の動詞でヨル形の容認度が上昇し、ヨル形のみ使用可能となるという結果がでた。S 氏の場合は「磨く」の例文で未来時制の場合ヨル形の容認度が上昇した為、例文を記載する。

(46)	<i>titiga</i>	<i>mado</i>
	<i>titi=ga</i>	<i>mado</i>
	父=NOM	窓

{*akejoru/akejoQta/akerunkana*}.

*ake-jor-ru/ake-jor-ta/ake-ru=no=ka=na*

開ける-PROG-NPST/開ける-PROG-PST/開ける-NPST=FMN=Q=SFP

(父が窓を開けているのを見て/開けていたのを思い出して/開けるのを想像して)

「父が窓を開けている/開けていた/開けているだろう。」

(47)	<i>watasiwa</i>	<i>nimotuo</i>
	<i>watasi=wa</i>	<i>nimotu=o</i>
	私=TOP	荷物=ACC

{*hakonbjoru/hakonbjotQta/hakonbjorujaroo*}.

*hakob-i-jor-ru/hakob-i-jor-ta/hakob-i-jor-ru=jar-oo*

運ぶ-THM-PROG-NPST/運ぶ-THM-PROG-PST/運ぶ-THM-PROG-NPST=COP-INFR

(荷物を運んでいる主体が何をしているのか聞かれて/

運んでいたのを思い出して/自分が運んでいるのを想像して)

「私は荷物を運んでいる/運んでいた/運んでいるだろう。」

(48)	<i>watasi</i>	<i>isio</i>
	<i>watasi</i>	<i>isi=o</i>
	私	石=ACC

{*migaQkjoru/migaQkjoQta/migaQkjorujaroR*}.

*miga-i-jor-ru/migak-i-jor-ta/migak-i-jor-ru=jar-oo*

磨く-THM-PROG-NPST/磨く-THM-PROG-PST/磨く-THM-PROG-NPST=COP-INFR

(石を磨いている最中/磨いていたのを思い出して/磨くのを想像して)

「私は石を磨いている/磨いていた/磨いているだろう。」

主体変化主体動作動詞、主体変化動詞（意志性+一）においては、ヨル形のみ用いるという結果となった。3名とも後者は同じ結果となったが、前者の動詞ではH氏が2形式用いることができ、その上でヨル形の方の容認度が高かった。また、M氏はS氏と同様の

結果であった。そのほか、人称を変更しても違いはなく、主体変化動詞において未来形は未回答であった。

(49)	<i>hahaga</i>	<i>isuni</i>
	<i>haha=ga</i>	<i>isu=ni</i>
	母=NOM	椅子=DAT

{*suwaQrjoru/suwaQrjoQta/suwaQrjoruyaroo*}.

*suwar-i-jor-ru/suwar-i-jor-ta/suwar-i-jor-ru=jar-oo*

座る-THM-PROG-NPST/座る-THM=PRO-PST/座る-THM-PROG-NPST=COP-INFR

(母が椅子に座ろうとしているのを見て/思い出して/想像して)

「母が椅子に座ろうとしている。」

(50)	<i>rousokuno</i>	<i>higa</i>	{ <i>kiejoru/kiejoQta</i> }.
	<i>rousoku=no</i>	<i>hi=ga</i>	<i>kie-jor-ru/kie-jor-ta</i>
	ろうそく=GEN	火=NOM	消える-PROG-NPST/消える-PROG-PST
	(ろうそくの火が消えつつあるのを見て/消えつつあったのを思い出して)		
	「ろうそくの火が消えつつある。/消えつつあった。」		

存在動詞においては、3名とも「いる」はヨル形、トル形ともにどの時制においても用いず、スル形のみ使用したが、「(会議が) ある」の場合はヨル形のみを使用した。なお、「(プリンが) ある」の場合はヨル形を用いることはできず、「いる」と同様の結果となった。

(51)	<i>kaigiga</i>
	<i>kaigi=ga</i>
	会議=NOM

{*anzjoru/anzjoQta/anzjorujaroR*}.

*ari-jor-ru/ar-i-jor-ta/ar-i-jor-ru=jar-oo*

ある-THM-PROG-NPST/ある-THM-PROG-PST/ある-THM-PROG-NPST=COP-INFR

(今会議が行われている/行われていた/行われているのを想像した)

「会議がある/会議があった/会議があるだろう。」

心理動詞においては、S 氏はヨル形のみ、H 氏は 2 形式を使用し、ヨル形の方が、容認度が高くなった。また、テンスに関しては 3 名とも未来形は解釈困難として未回答となつたためデータはなく、人称に関しては一人称より三人称の方の容認度が上昇した。

- (52) *hahaga*      *kondateo*      *{kangaejoru/kangaetoQta}.*  
 haha=ga      kondate=o      kangae-jor-ru/kangae-jor-ta  
 母=NOM      献立=ACC      考える-PROG-NPST/考える-PROG-PST  
 (目の前で母が献立を考えている最中/献立を考えていたのを思い出して)  
 「母が献立を考えている/母が献立を考えていた。」

知覚動詞において、S 氏はヨル形のみ使用可能だったが、ほかの 2 名は 2 形式ともに使用することができ、これらの容認度に差がないという結果になった。

- (53) *taikono*      *oktoga*  
 taiko=no      oto=ga  
 太鼓=GEN      音=NOM  
*{kikoejoru/kikoejoQta/kikoejorujaroR}.*  
 kikoe-jor-ru/kikoe-jor-ta/kikoe-jor-ru=jar-oo  
 聞こえる-PROG-NPST/聞こえる-PROG-PST/聞こえる-PROG-NPST=COP-INFR  
 (外から太鼓の音が聞こえている最中/聞こえていたのを思い出して/想像して)  
 「太鼓の音が聞こえている/聞こえていた/聞こえているだろう。」

関係動詞、特性動詞に関しては、前者は 3 名とも現在のみ回答があり、ヨル形のみを使うという結果が得られた。後者では H 氏のみ全ての時制においてヨル形のみを用い、ほか 2 名は使用不可とした。そのため特性動詞のみ H 氏の回答を記述する。

- (54) *otoRsaNni*      *nitekijoru.*  
 otousan=ni      nitek-i-jor-ru  
 お父さん=DAT 似てくる-THM-PROG-NPST  
 「お父さんに似てきている。」

- (55) *taroRwa*      *zjoRzuni*  
 tarou=wa      zjouzu=ni  
 太郎=TOP      上手=DAT

$\{ojogejoru/ojogejoQta/ojogejorujaroR\}.$   
 ojoge-jor-ru/ojoge-jor-ta/ojoge-jor-ru=jar-oo  
 泳げる-PROG-NPST/泳げる-PROG-PST/泳げる-PROG-NPST=COP-INFR  
 (太郎が上手に泳いでいるのを見て/思い出して/これから泳ぐのを想像して)  
 「太郎は上手に泳げている/泳げていた/泳げているだろう。」

#### 4.2.6. <結果>

<結果>については、主体動作動詞以外の運動動詞と関係動詞を用いて調査を行ったところ、3名ともトル形のみを用いるという結果が得られた。テンスに関しては、一部の動詞で過去と未来が未回答のものがある。また、人称の変更による違いは得られなかった。主体動作動詞は外的終了限界を設定しても、結果継続というよりは動作そのものを捉える意味が強まるために調査項目から除外している。以下、動詞別の結果を記述する。

動き動詞においては、トル形のみを用いるという結果が得られた。また、現在と過去のみの回答となった。

- (56) *hikoukiga* {*tondoru/tondoQta*}.  
 hikouki=ga tob-i-tor-ru/tob-i-tor-ta  
 飛行機=NOM 飛ぶ-THM-PF-NPST/飛ぶ-THM-PF-PST  
 (飛行機がフライトを終えている状況/フライトを終えていたのを思い出して)  
 「飛行機が飛んでいる/飛んでいた。」

- (57) *amega* {*huQtoru/huQtoQta*}.  
 ame=ga hur-i-tor-ru/hur-i-tor-ta  
 雨=NOM 降る-THM-PF-NPST/降る-THM-PF-PST  
 (雨がやみ、水たまりがある状況/降り終わっていたのを思い出して)  
 「雨が降り終わっている。/雨が降っていた。」

主体動作客体変化動詞では、いずれの時制においても3名ともトル形のみを用いるという結果が得られた。なお、「落とす」の例文については未来形の回答がなかったため、記載していない。

- (58) *titiga* *madoo*  
 titi=ga mado=o  
 父=NOM 窓=ACC

{aketoru/aketoQta/aketorujaroR}.

ake-tor-ru/ake-tor-ta/ake-tor-ru=jar-oo

開ける-PF-NPST/開ける-PF-PST/開ける-PF-NPST=COP-INFR

(父が窓を開け放している状況/思い出して/想像して)

「父が窓を開けている/父が窓を開けていた/父が窓を開けているだろう。」

(59) *kodomoga*      *okaneo*      {otositoru/otositoQta}.

*kodomo=ga*      *okane=o*      otos-i-tor-ru/otos-i-tor-ta

子供=NOM      お金=ACC      落とす-THM-PF-NPST/落とす-THM-PF-PST

「子供がお金を落としている。/お金を落としていた。」

主体変化動詞においては、意志性の有無にかかわらずどの時制においても3名ともトル形のみを用いるという結果が得られた。

(60) *titiwa jakusjoni*      {iQtoru/iQtoQta/iQtorujaroR}.

*titi=wa jakusjo=ni*      ik-i-tor-ru/ik-i-tor-ta/ik-i-tor-ru=jar-oo

父=TOP 役所=DAT      行く-THM-PF-NPST/行く-THM-PF-NPST=COP-INFR

「父は役所に行っている/行っていた/行っているだろう。」

(61) *sentakumonoga*

*sentakumono=ga*

洗濯物=NOM

{kawaitoru/kawaitoQta/kawaitorujaroR}.

kawak-i-tor-ru/kawak-i-tor-ta/kawak-i-tor-ru=jar-oo

乾く-THM-PF-NPST/乾く-THM-PF-PST/乾く-THM-PF-NPST=COP-INFR

「洗濯物が乾いている/洗濯物が乾いていた/洗濯物が乾いているだろう。」

関係動詞においては3名とも現在、過去においてトル形のみを用いるという結果が得られた。なお、未来形は未回答だった。

(62) *karewa titini*      {nitoru/nitoQta}.

*kare=wa titi=ni*      ni-tor-ru/ni-tor-ta

彼=TOP      父=DAT      似る-PF-NPST/似る-PF-PST

「彼は父に似ている/父に似ていた。」

#### 4.2.7. <痕跡>

<痕跡>については、運動動詞を使用して例文を作成し調査を行ったところ、話者3名ともトル形を用いるという結果を得た。ここでも、人称の制限はなかった。テンスは現在と過去を確認したもの、過去形については未回答のものが多く、以下例文でも非過去形のみの記載が多くなっている。また、一部の例において、/sitanjana/という結果も出た。これは、先行時の動作の達成性が強く現れた結果と考えた。以下、動詞別に調査結果を記述する。

まず、主体動作動詞・動き動詞においては3名とも第一回答としてトル形を用いるという結果が得られた。

- (63) *darekaga*      *haktakede*      *gomio*      *mojasitoru.*  
dareka=ga      hantake=de      gomi=o      mojas-i-tor-ru  
誰か=NOM      畑=LOC      ゴミ=ACC      燃やす-THM-PF-NPST  
(畑にゴミの欠片が落ちていたり、土が黒くなっていたりするのを見て)  
「誰かが畑でごみを燃やしている。」

- (64) *darekaga*      *gjuRnjuRo*      *nondoru.*  
dareka=ga      gjuunjuu=o      nom-i-tor-ru  
誰か=NOM      牛乳=ACC      飲む-THM-PF-NPST  
(リビングの机に空の牛乳パックが置かれているのを見て)  
「誰かが牛乳を飲んでいる。」

- (65) *kodomoga*      *kouende*      *asondoru/asondoQta.*  
kodomo=ga      kouen=de      asob-i-tor-ru/asob-i-tor-ta  
子供=NOM      公園=LOC      遊ぶ-THM-PF-NPST/遊ぶ-THM-PF-PST  
(公園の砂場で何かを作って遊んだあとがあるのを見て)  
「子供が公園で遊んでいる/遊んでいた。」

- (66) *ara, kodomoga*      *naitoru/naitanja.*  
ara      kodomo=ga      nak-i-tor-ru/nak-i-ta=no=ja=na  
FIL      子供=NOM      泣く-THM-PF-NPST/泣く-THM-PST=FMN=Q=SFP  
(目の周りが赤く、頬に涙のあとがある子どもを見て)  
「あら、子供が泣いている。」

主体動作客体変化動詞では、3名ともトル形のみを用いるという結果が得られた。

- (67) *karega*      *pano*      *jaitoru.*  
kare=ga      pan=o      jak-i-tor-ru  
彼=NOM      パン=ACC      焼く-THM-PF-NPST  
(朝、トースターの周りにパンくずが落ちているのを見て)  
「彼がパンを焼いている。」

- (68) *kazokuga*      *madoo*      *aketoru.*  
kazoku=ga      mado=o      ake-tor-ru  
家族=NOM      窓=ACC      開ける-PF-NPST  
(窓は閉まっているが雨が吹き込んで部屋が濡れているのを見て)  
「家族が窓を開けている。」

主体変化動詞では、3名とも意志性の有無にかかわらずトル形のみを用いるという結果が得られた。

- (69) *okjakusanga*      *utini*      *kitoru.*  
okjakusan=ga      uti=ni      k-i-tor-ru  
お客様=NOM 家=DAT      来る-THM-PF-NPST  
(玄関先に知らない人の靴や荷物があるのを見て)  
「お客様が家に来ている。」

- (70) *kadanno*      *hanaga*      *karetoru.*  
kadan=no      hana=ga      kare-tor-ru  
花壇=GEN      花=NOM      枯れる-PF-NPST  
(花のない花壇の周りに枯れた花びらが落ちているのを見て)  
「花壇の花が枯れている。」

#### 4.2.8. <効力>

効力に関しては、運動動詞において話者3名とも第一回答としてトル形を用い、ヨル形を用いないという結果を得た。また、人称の制限はなかった。一部の例文に「昨日」や「この前」といった過去を示す語をついたことで、/sitoQta/があらわれている。以下、動詞別に調査結果を記述する。

まず、主体動作動詞、動き動詞は、自他に問わらずトル形を用いるという結果が得られた。しかし、一部の例文において「走った」「遊んだ」というように、スル形があらわれる場合もあった。

(71)	<i>kinoRmo</i>	<i>tjuRkarjoRrio</i>	<i>tabetorukeN,</i>
	<i>kinou=mo</i>	<i>tjuukarjouri=o</i>	<i>tabe-tor-ru=ken</i>
	昨日=ADD	中華料理=ACC	食べる-PF-NPST=CSL

<i>kjoRwa</i>	<i>jameru.</i>
<i>kjou=wa</i>	<i>jame-ru</i>
今日=TOP	やめる-NPST

「昨日も中華料理を食べているから、今日はやめる。」

(72)	<i>karewa</i>	<i>geRmuo</i>	<i>sanzjuQpuN</i>	<i>asondorukara,</i>
	<i>kare=wa</i>	<i>geemu=o</i>	<i>sanzjupun</i>	<i>asob-i-tor-ru=kara</i>
	彼=TOP	ゲーム=ACC	30 分	遊ぶ-THM-PF-NPST=CSL

<i>kjoRwa</i>	<i>mou</i>	<i>dekinai.</i>
<i>kjou=wa</i>	<i>mou</i>	<i>deki-nai</i>
今日=TOP	もう	できる-NEG

「彼はゲームを 30 分遊んでいるから、今日はもうできない」

(73)	<i>taroRwa</i>	<i>naganeN</i>	<i>huransuni</i>	<i>sundorukara,</i>
	<i>tarou=wa</i>	<i>naganen</i>	<i>huransu=ni</i>	<i>sum-i-tor-ru=kara</i>
	太郎=TOP	長年	フランス=DAT	住む-THM-PF-NPST=CSL

<i>huransugoga</i>	<i>tokuida.</i>
<i>huransugo=ga</i>	<i>tokui=da</i>
フランス語=NOM	得意=SFP

「太郎が長年フランスに住んでいるから、フランス語が得意だ。」

主体変化動詞については、意志性の有無にかかわらず、トル形を用いることができるという結果が得られた。

(74)	<i>karewa</i>	<i>izeN</i>	<i>sigotode</i>	<i>rosiani</i>
------	---------------	-------------	-----------------	----------------

kare=wa izen      sigoto=de      rosia=ni  
 彼=TOP 以前      仕事=INS      ロシア=DAT

*iQtorukara,      rosiagoga      wakaru.*  
 ik-tor-ru=kara      rosiago=ga      wakar-ru  
 行く -PF-NPST=CSL      ロシア語=NOM 分かる-NPST  
 「彼は以前仕事でロシアに行っているから、ロシア語が分かる。」

(75)      *kono      ko      maemo      isukara*  
 kono      ko      mae=mo      isu=kara  
 この      子      前=ADD      椅子=ABL

*otitorukara,      kio      tukete.*  
 oti-tor-ru=kara      ki=o      tuke=te  
 落ちる-PF-NPST=CSL      気=ACC      付ける-IMP  
 「この子は前も椅子から落ちているから、気をつけて。」

主体動作客体変化動詞については「開ける」の部分は過去形になっているものの、話者の3名ともトル形を用いていた。これについては、「昨日」をつけなければ/aketoru/になるという回答もあった。

(76)      *kinoR      zuQto      madoo      aketoQtakara,*  
 kinou      zutto      mado=o      ake-tor-ta=kara  
 昨日ずっと窓=ACC 開ける-PF-NPST=CSL

*kaga      hejani      oru.*  
 ka=ga      heja=ni      i-ru  
 蚊=NOM      部屋=DAT      いる-NPST  
 「昨日ずっと窓を開けていたから、蚊が部屋にいる。」

(77)      *danboRruwa      toQkuni      katazuketorukara,*  
 danbooru=wa      tokkuni      katazuke-tor-ru=kara  
 段ボール=TOP とっくに片づける-PF-NPST=CSL

*souziwa      iijo.*

#### 4.2.9. <特性>

特性に関しては、例文をつくることができる動詞のみを用いて調査を行ったところ、トル形のみを用いるという結果が得られた。特性は単なる状態というだけではなく、先行時の状況に左右されない状態を示し、形容詞的に用いられる。なお、例文を作成できた動詞は、主体動作動詞（自動詞・意志性+）、主体動作客体変化動詞（他動詞）、主体変化動詞（自動詞・意志性-）であった。

- (78) *kousokuga*      *kokoni*       $\{*\text{toR}Q\text{rjoru}/\text{toR}Q\text{toru}\}.$   
           kousoku=g a      koko=n i      toor-tor-ru  
           高速=NOM      ここ=DAT      通る-PF-NPST  
           「高速がここに通っている。」

- (79) *marugamezjoRno*      *isigakiga*      {*\*kuzurejoru/kuzuretoru*}.  
 marugamezjou=no      isigaki=ga      kuzure-tor-ru  
 丸亀城=GEN      石垣=NOM      崩れる-PF-NPST  
 「丸亀城の石垣が崩れている。」

- |      |                 |              |             |                                  |
|------|-----------------|--------------|-------------|----------------------------------|
| (80) | <i>kono</i>     | <i>iewa</i>  | <i>kaki</i> | <i>{*turuQsyoru/turusitoru}.</i> |
|      | <i>kono</i>     | <i>ie=wa</i> | <i>kaki</i> | <i>turus-i-tor-ru</i>            |
|      | この              | 家=NOM        | 柿           | 吊るす-THM-PF-NPST                  |
|      | 「この家は柿を吊るしている。」 |              |             |                                  |

## 5. 考察

本節では調査結果にもとづく考察をいくつか記述する。

### 5.1. 中讃方言のアスペクト体系

工藤（1995, 2014）の動詞分類をもとにして、動詞とアスペクトの意味を変数にして調査を行ったところ、香川県中讃方言のアスペクト体系は(81)のようになる。

- (81) a. スル形の持つアスペクト的意味 完成 (ひとまとまり性・限界達成性)  
直前 (開始限界直前の段階)

## 反復習慣（運動の反復・習慣性）

- b. ヨル形の持つアスペクト的意味 直前（開始限界直前の段階）  
反復習慣（運動の反復・習慣性）  
未遂（開始直前での未達成）  
進行（過程の進行・継続）
- c. トル形の持つアスペクト的意味 進行（過程の進行・継続）  
結果（必然的な変化結果）  
痕跡（形跡から運動を推定）  
効力（先行時の運動の影響の残存）  
特性（人・モノの恒常的特性）

中でも＜反復習慣＞でトル形を用いる回答が散見された点については、元々この意味でトル形を用いるわけではない。そもそも調査票作成の上で反復性や習慣性を文意に持たせたかったために「毎日」「よく」といった語をつけたものの、それら以上に、発話時に認識、想起した1回の運動によって進行と結びついたことで誘発されたか、運動ひとまとまりが優先されたことで動作パーフェクトとしてのトル形の容認度上昇に繋がった可能性がある。また、＜進行＞に関する回答が話者3名それぞれ異なっていたことについては、3名の間にゆるやかな言語変化がみられるということである。3名とも出身は同じであり、ほぼ同年代であるが、そのなかで基本的にヨル形のみを用いていた80代のS氏と、2形式を用い、一部の動詞で中和が起こっている70代のH氏は明らかに異なっている。そして、H氏と同い年のM氏はヨル形のみを用いる場合もあれば、2形式ともに使い、その上でヨル形の方が、容認度が高いという結果を示していたため、M氏は他2名の中間に位置すると推定する。

### 5.2. <直前>の意味領域について

<直前>は先述したように、<進行>との境界が曖昧となっているため、いくつかの状況設定における使用状況を調べ、話者が考えている<進行>の開始点を明確にすることが<直前>を調査する上での目的の1つだった。<進行>は3名ともスル形ではなく、ヨル形が該当していたため、スル形と回答する状況においては、話者はこれが事態の開始直前であると認識していると推定した。また、/sijoRtosjoRru/については、スル形と同じ認識であるというコメントを得たため、<直前>の形式と仮定した。以下、例をあげて細かい状況設定に触れる。

例えば、(82)のような場合があるとする。

(82)	<i>karega</i>	<i>gomi</i>	<i>mojasunkana.</i>
	<i>kare=ga</i>	<i>gomi</i>	<i>mojas-ru=no=ka=na</i>
	彼=NOM	ごみ	燃やす-NPST=FMN=Q=SFP
「彼がゴミを燃やそうとしている。」			

この場合、まず「単にごみを集めている状況」が想像されたため、その状況から「ごみに火がついて燃えている状況」までの3つの状況（「マッチを擦っている状況」「ごみに火をつける寸前」「ごみを集め終えている状況」）を尋ねた。そのとき、S氏とH氏は3つ全てスル形ないし/sijoRtosjoRru/になった。M氏は「マッチを擦る状況」での使用状況を聞けなかったが、火をつける寸前であればヨル形を用いると回答した。M氏の明確な境界は定かではないが、少なくとも火をつける前後であることが考えられる。また、ほか2名はごみに火がついて初めて＜進行＞とみなしていた。

また、(83)で調査を行い、より細かい状況設定を調べた。

(83)	<i>okaRsan</i>	<i>kotatuni</i>	<i>{haiQrjoru/hairuna}.</i>
	<i>okaasan</i>	<i>kotatu=ni</i>	<i>hair-i-jor-ru/hair-ru=na</i>
	お母さん	こたつ=DAT	入る-THM-PROG-NPST/入る-NPST=SFP
「お母さん、こたつに入ろうとしている。」			

この場合、話者は「炬燵の布団をめくった時（足は入れていない）」や「座って足を入れようとしている時」を想像していたため、「入れようとしている足は片足か両足か」「座っただけの状況」「炬燵向かって座っただけ」「炬燵に向かって歩いている時」といった状況を設定した。この時、M氏はスル形が容認できるのは「両足が入れるまでの段階」と答えたが、ヨル形の使用状況が「布団をめくって以降の段階」であったため、「布団をめくった時」が境界となり、＜直前＞の意でヨル形を用いる領域が存在する結果となった。これは主体変化動詞（意志性+）において、曖昧ながらも＜直前＞の意でヨル形を用いる可能性があることを示唆している。また、S氏の場合は、境界自体は同じだったが、全体的な結果としては、まず炬燵へ向かって座り、足を延ばそうとしている段階まで炬燵に入ることを推測し、めくった段階でそれが確信に変わり、同時に過程の進行とみなされていた。梁井（2014）で触れられていた「兆候の知覚」がここでは推測と確信に該当すると考えられる。そして、一瞬ではあるものの、M氏同様にヨル形が＜直前＞の領域に触れる結果となっている。H氏もS氏と同様の結果ではあるものの、/sijoRtosjoRru/を容認できる境界が「布団をめくった時」であり、開始直前に該当する、「炬燵に向かって座った段階」では容認できず、スル形を容認できない段階である「片足を入れたとき」は容認できると

の結果が得られた。つまりこの形式は単に開始直前を示し、先述した仮定と異なり、スル形と同様の働きをするのではなく、2つの領域に跨っている上に、過程の進行でより強く現れる形式と考えられる。

そのほか、(84)の例をとりあげる。

(84)	<i>a</i> ,	<i>saraga</i>	<i>{otirujo/otijoru}.</i>
	<i>a</i>	<i>sara=ga</i>	<i>oti-ru=jo/oti-jor-ru</i>
	<i>FIL</i>	<i>皿=NOM</i>	<i>落ちる-NPST=SFP/落ちる-PROG-NPST</i>
「あ、皿が落ちそうになっている。」			

この例では、皿が床へと落ちていっておらず、つまり単に開始直前の段階であるにもかかわらず、ヨル形を用いるという結果が話者全員に確認できた。これは梁井 (2014: 233)において触れられていた動詞の種類別の拡大に関連していると考えられる。つまり、主体変化動詞のうち、意志性があるものに関しては、未だ連續性が強く曖昧ではあるものの、意志性のないものに関しては、開始直前の段階においてヨル形を用いることが可能ということである。

これら3つの例から、話者それぞれに2つの意味の境界、つまり開始点が異なることが改めて確認できた。また、主体動作動詞では動作を開始する時点が明確であるため、<直前>かそうでないかがある程度はっきりしており、開始点の想定は容易であると考えられる。しかし、主体変化動詞は曖昧であるために<進行>との連續性が強まる動詞であり、開始点の想定は困難である。しかし、意志性がないものはヨル形を用いることができ、意志性があるものに関しては、H氏の回答から/*sijoRtosjoRru*/とスル形、そしてヨル形の使用状況を併せて調査することが開始点想定の糸口となり、ヨル形の容認度をより図りやすくなる可能性がある。

## 6. おわりに

香川県中讃方言で用いられているアスペクト表現を調査した結果、ヨル形とトル形の対立のみならず、スル形の対立がみられた。また、それぞれスル形は完成、反復習慣、直前の3つ、ヨル形は直前、反復習慣、未遂、進行の4つ、そしてトル形は進行、結果、痕跡、効力、特性の5つの意味において使用されることが分かり、一部の意味においてそれぞれ対立関係があった。また、時制や動詞の種類がそれぞれの形式の容認度に影響があり、アスペクトとテンスの関係の深さを改めて確認した。以上のことから、香川県中讃方言のアスペクト体系は先述したように<直前>の意味領域と使用条件、以外の点においては愛媛県宇和島方言と同様のアスペクト体系であり、概ね同様であった。

しかし、今後の課題はいくつかある。まず、工藤 (2014) で示されていた、トル形を使

用するアスペクト的意味の1つの反実仮想に関する調査を行っていない点である。内省では、トル形の過去形である/*toQta*/のみで表すことができ、運動動詞において使用可能であるが、話者3名に調査を行えていないため、使用状況が不明であるために、追加で調査する必要がある。

また、今回の調査では運動動詞に重きを置いて調査を行ったために、状態性動詞や内的静態動詞の調査項目が乏しい点である。例えば、知覚動詞に関しては工藤（1995: 65）や柴田（1982）ではヨル形とトル形が中和するとの結果だったが、調査の中でヨル形のみを使用する話者がいた。これが単に例文設定のミスであるか、話者によってはヨル形のみを使用するという結果であるかを確認できていない。また、関係動詞や特性動詞については動詞例が少なく、傾向を出すことが困難なデータとなっているため、追加調査を行う際にはこうした動詞に着目する必要がある。これと関連して、主体動作客体変化動詞において能動と受動によって意味が異なるという工藤（1995）の記述が中讚方言においてもあてはまるのかを確認できていない点を含め、以上を今後の課題とする。

## 参照文献

- 木野田れい子 (1982) 「香川県の方言」 飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一 (編) 『講座方言学 8—中国・四国地方の方言—』 367-393. 東京: 国書刊行会.
- 国立国語研究所 (編) (2003) 「全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 16」 東京: 国立国語研究所.
- 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテクスト—現代日本語の時間の表現—』 東京: ひつじ書房.
- 工藤真由美 (2014) 『現代日本語ムード・テンス・アスペクト論』 東京: ひつじ書房.
- 鴨井修平 (2020) 「西日本諸方言におけるアスペクト体系のバリエーション—YORU・TORU・TERU の記述を中心に—」 『言語記述論集』 12: 223-240.
- 乙武香里 (2019) 「香川県高松市方言」 方言文法研究会 (編) 『全国方言文法辞典資料集 (5) 活用体系 (4)』 73-87. 大阪: 方言文法研究会.
- 柴田昭二 (1982) 「香川県方言のアスペクトについて」 『香川大学一般教育研究』 22: 11-27.
- 高橋顕志 (1991) 「四国方言における「テオル系」アスペクト辞の諸相—「四国言語地図」より (1) 一」 『高知女子大学紀要 人文・社会科学編』 39: 23-31.
- 高橋顕志 (1992) 「四国方言における「オル系」アスペクト辞の諸相—「四国言語地図」より (2) 一」 『高知女子大学紀要 人文・社会科学編』 40: 131-144.
- 梁井久江 (2014) 「いわゆる「将然」とは何か—西日本方言のショル形と英語の現在進行形の対照を通じて—」 小林賢次・小林千草 (編) 『日本語史の新視点と現代日本語』 224-244. 東京: 勉誠出版.

## グロス一覧・記号一覧

ABL	奪格
ACC	目的格
ADD	累加
CND	条件
COP	コピュラ
CSL	順接
DAT	与格
FIL	フィラー
FMN	形式名詞
GEN	属格
IMP	命令
INFR	推量
INS	具格
INT	意志
LOC	位格
NEG	否定
NOM	主格
NPST	非過去
PROG	継続相
PST	過去
PF	完了相
Q	疑問助詞
QUOT	引用
SEM	様態
SEQ	継起
SFP	終助詞
THM	語幹母音
TOP	主題
=	接語境界
-	接辞境界
*	話者が容認不可とする表現

## 付録 1. 調査例文 (S 氏)

ここでは調査に用いた調査票と、話者 3 名の結果を意味別に 1 人ずつ記述する。具体的には動詞の種類、動詞例と標準語での例文と話者の結果である。なお、直前は状況設定の情報が多い為、最後に記す。また、複数の形式があらわれた場合、容認度が異なるものもあるため、以下の記号で示し、ヨル形を Y、トル形を T、そしてスル形を S として略式で示す。なお、調査の順序や話者の都合上、話者全員分の調査結果がない動詞も存在する。

> 容認度に差があり

(Y>T は「ヨルとトルいずれも用いるがヨル形の容認度がより高い」という意味。)

= 容認度に差なし

(S=Y>T は「全て容認できるが、T よりほか 2 形式の方が容認度は高い」という意味。)

× 容認できない

○ 容認できる

ここで話者の基本データを改めて示す。

- ・S 氏: 80 代・女性。香川県丸亀市出身、在住（県外在住歴なし）
- ・M 氏: 70 代・女性。香川県丸亀市出身、在住（19~20 歳時、大阪に在住）
- ・H 氏: 70 代・女性。香川県丸亀市出身、坂出市在住（19~20 歳時、東京に在住）

まず、S 氏のデータを以下に示す。

意味	動詞の種類	動詞例	調査例文	調査結果
完成	主体動作動詞（他動詞）	食べる	あ、犬が餌を食べた。	<i>a, inuga esao tabeta.</i>
			私は 9 時に夕食を食べる。	<i>watasiwa kuzini juRsjokuo taberu.</i>
	主体動作動詞（自動詞）	泳ぐ	あ、犬が泳いだ。	<i>a, inuga ojoida.</i>
			太郎は 50 メートル泳いだ。	<i>taroRwa gozjuRmeRtoru ojoida.</i>
			明日太郎は川で泳ぐ。	<i>asita taroRwa kawade ojogu.</i>
		住む	3 年花子は福岡に住んだ。	<i>saNneN hanakowa hukuokani sunda.</i>
			来年花子は福岡に住む。	<i>raineN hanakowa hukuokani</i>

				sumu.
	動き動詞	飛ぶ	あ、飛行機が飛んだ。	<i>a, hikoRkiga tonda.</i>
		降る	さっき雨が降ったよ。	<i>saQki amega huqtajo.</i>
			明日雨が降るよ。	<i>asita amega hurujo.</i>
	主体動作客 体変化動詞	編む	昨日花子は手袋を編んだ。	<i>kinoR hanakowa tebukuroo anda.</i>
			花子は手袋を編むそうだ。	<i>hanakowa tebukuroo amunjatte.</i>
		植える	父が庭に桜を植えた。	<i>titiga niwani sakurao ueta.</i>
			明日父が庭に桜を植える。	<i>asita titiga niwani sakurao ueru.</i>
	主体変化主 体動作動詞	着る	明日太郎は着物を着るそ だ。	<i>asita taroRwa kimono kirusoRda.</i>
			太郎はさっきスーツを着 た。	<i>taroRwa saQki suRtuo kita.</i>
	主体変化動 詞（意志性 +）	行く	さっき彼は職場に行つた。	<i>saQki karewa sjokubani iQta.</i>
			明日彼は東京に行く。	<i>asita karewa toRkjoRni iku.</i>
		帰る	昨日彼は家に帰った。	<i>kinoR karewa ieni kaeQta.</i>
			明日太郎が家に帰る。	<i>asita taroRga ieni kaeru.</i>
	主体変化動 詞（意志性 -）	枯れる	先週庭の桜が枯れた。	<i>sensjuR niwano sakuraga kareta.</i>
			この花はすぐ枯れる。	<i>kono hanawa sugu kareru.</i>
		炊ける	さっきご飯が炊けた。	<i>saQki gohangang taketa.</i>
			6時にご飯が炊ける。	<i>rokuzini gohangang takeru.</i>
	心理動詞	思う	私は家に帰ろうと思う。	<i>watasiwa ieni kaeroRto omou.</i>
	知覚動詞	聞こえ る	太鼓の音が聞こえる。	<i>taikono otoga kikoeru.</i>
			太鼓の音が聞こえた。	<i>taikono otoga kikoeta.</i>
	特性動詞	切れる	この包丁はよく切れる。	<i>kono hoRtjoRwa joku kireru.</i>
			この包丁はよく切れた。	<i>kono hoRtjoRwa joku kireta.</i>
		吹ける	やっと笛が吹ける。	<i>jaQto huega hukeru.</i>
			やっと笛が吹けた。	<i>jaQto huega huketa.</i>

意	動詞の種	動詞	容認度	時	調査例文	調査結果
---	------	----	-----	---	------	------

味	類	例		制		
反復慣習	主体動作動詞（他動詞）	鳴らす	S=Y	非過去	彼はよく指を鳴らしている（だろう）。	<i>karewa joR jubio naraQsjoru, narasu (jaroR) .</i>
			S=Y	過去	彼はよく指を鳴らしていた。	<i>karewa joR jubio naraQsjoQta/narasita.</i>
	待つ	S=Y	S=Y	非過去	あの犬は毎日飼い主を待っている（だろう）。	<i>ano inuwa mainiti kainusio maQtjoru, matu (jaroR) .</i>
			S=Y	過去	あの犬は毎日飼い主を待っていた。	<i>ano inuwa mainiti kainusio maQtjoQta, maQta.</i>
	主体動作（自動詞）	遊ぶ	S=Y	非過去	子供がよくここで遊んでいる（だろう）。	<i>kodomoga joku kokode asonbjoru/asobu (jaroR) .</i>
			S=Y	過去	子供がよくここで遊んでいた。	<i>kodomoga joku kokode asonbjQta/ asonda.</i>
		通う	S=Y	非過去	私は毎週ギター教室に通っている（だろう）。	<i>watasiwa maisjuR gitaRkjoRsituni kajojoru, kajou (jaroR) .</i>
			S=Y	過去	私は毎週ギター教室に通っていた。	<i>watasiwa maisjuR gitaRkjoRsituni kajoijoQta/kajoQta.</i>
	動き動詞	吹く	S=Y	非過去	ここはいつも強い風が吹いている。	<i>kokowa itumo tujoi kazega huQkjoru/huku.</i>
			S=Y	過去	ここはいつも強い風が吹いていた。	<i>kokowa itumo tujoi kazega huQkjoQta/huita.</i>
	主体動作 客体変化動詞	開ける	S=Y	非過去	毎朝彼女が窓を開けている（だろう）。	<i>maiasa kanozjoga madoo akejoru, akeru (jaroR) .</i>

		S=Y	過去	毎朝彼女が窓を開けていた。	<i>maiasa kanojoga madoo akejoQta/aketa.</i>
	掘る	S=Y	非過去	あの犬はいつも庭を掘っている。	<i>ano inuwa itumo niwao hoQrjoru/horu.</i>
		S=Y	過去	あの犬はいつも庭を掘っていた。	<i>ano inuwa itumo niwao hoQrjoQta/hoQta.</i>
主体変化 主体動作 動詞	履く	S=Y	非過去	彼はいつも同じ靴を履いている（だろう）。	<i>karewa itumo onazi kutuo haQkjoru, haku (jaroR) .</i>
		S=Y	過去	彼はいつも同じ靴を履いていた。	<i>karewa itumo onazi kutuo haQkjoQta/haita.</i>
主体変化 動詞（意志性+）	行く	S=Y	非過去	毎朝 7 時に彼は学校に行っている（だろう）。	<i>maiasa sitizini karewa gaQkouni ikQjoru, iku (jaroR) .</i>
		S=Y	過去	毎朝 7 時に彼は学校に行っていた。	<i>maiasa sitizini karewa gaQkouni iQkjoQta/iQta.</i>
	座る	S=Y	非過去	彼は毎日縁側で座っている（だろう）。	<i>karewa mainiti engawade suwaQrjoru,suwaru (jaroR) .</i>
		S=Y	過去	彼は毎日縁側で座っていた。	<i>karewa mainiti engawade suwaQrjoQta/suwaQta.</i>
主体変化 動詞（意志性-）	集まる (S =Y > T)	S=Y>T	非過去	彼らは毎週部室に集まっている（だろう）。	<i>karerawa maisjuR busituni atumaQrjoru,atumaru, atumaQtoru (jaroR) .</i>
		S=Y>T	過去	彼らは毎週部室に集まっていた。	<i>karerawa maisyur busituni atumaQrjoQta/atumaQ ta/atumaQtoQta.</i>

		落ちる	S=Y	非過去	秋になると銀杏が落ちている（だろう）。	<i>akini naruto giNnaNno miga oQtjoru,otiru (jaroR) .</i>
			S=Y	過去	秋になると銀杏が落ちていた。	<i>akini naruto giNnaNno miga oQtjoQta/otita.</i>
	心理動詞	怒る	S=Y>T	非過去	彼は毎日後輩に怒っている。	<i>karewa mainiti koRhaini okoQrjoru/okoru/okoQt oru.</i>
			S=Y>T	過去	彼は毎日後輩に怒っていた。	<i>karewa mainiti koRhaini okoQrjoQta/okoQta/ok oQtoQta.</i>
			S=Y=T	非過去	彼は毎日後輩を怒っている。	<i>karewa mainiti koRhaio okoru/okoQrjoru/okoQt oru.</i>
			S=Y=T	過去	彼は毎日後輩を怒っていた。	<i>karewa mainiti koRhaini okoQta/okoQrjoQta/ok oQtoQta.</i>
	知覚動詞	見える	S=Y	非過去	ベランダからいつも飯野山が見えている。	<i>berandakara itumo iinojamaga miejoru/mieru.</i>
			S=Y	過去	ベランダから飯野山がいつも見えていた。	<i>berandakara itumo iinojamaga miejoQta/mieta.</i>
未遂	主体動作動詞（他動詞）	飲む	Yのみ ○	過去	(牛乳を飲もうとして誰かに止められた主体) 私は牛乳を（もう少しで）飲むところだった。	<i>watasiwa oRkata gjuRnjuRo noNmjoQta.</i>

	主体動作動詞（自動詞）	走る	Y	過去	(走ろうとしていた生徒が結局走らなかつた) 生徒がもう少しで廊下を走るところだった。	<i>seitoga oRkata roRkao hasinzjoQta.</i>
		通う	Y	過去	(通おうとしたものの、結局一度きりしか行かなかつた主体) 私はもう少しでパチンコ屋に通うところだった。	<i>watasiwa oRkata patinkojani kajoijoQta.</i>
	動き動詞	燃える	Y	過去	(ボヤ騒ぎがあった者の、結局燃えはしなかつた) 家がもう少しで燃えるところだった。	<i>iega oRkata moejoQta.</i>
		降る	Y	過去	(曇り空で予報も雨だが結局降らなかつた状況) 雨がもう少しで降るところだった。	<i>oRkata amega huQrjoQtana.</i>
	主体変化主体動作動詞	被る	Y	過去	(壊れたヘルメットを被ろうとして誰かに止められた主体) 私はもう少しで壊れたヘルメットを被るところだった。	<i>watasiwa oRkata herumeQtoo kabuQrjoQta.</i>
	主体動作客体変化動詞	落とす	Y	過去	(落ちそうになった茶碗をつかんだ話し手) 子供がもう少しで茶碗を落とすところだった。	<i>kodomoga oRkata tjawano otoQsjoQta.</i>
		運ぶ	Y	過去	(皿を運ぼうとしたら第三者に止められた主体) 私はもう少しで料理を運ぶところだった。	<i>watasiga oRkata rjoRrio hakonbjoQta.</i>

	主体変化動詞（意志性+）	行く	Y	過去	(玄関を出ようとして忘れ物に気づいた主体を見て) 子供がもう少しで学校に行くところだった。	<i>kodomoga oRkata gaQkoRni iQkjoQta.</i>
		捕まる	Y	過去	(警察の追っ手を振り切った主体) 太郎はもう少しで警察に捕まるところだった。	<i>taroRwa oRkata keisatuni tukamaQrjoQta.</i>
	主体変化動詞（意志性-）	溶ける	Y	過去	(外に少し出されていたアイスを見て) アイスがもう少しで溶けるところだった。	<i>aisuga oRkata tokejoQta.</i>
		抜ける	Y	過去	(取れかけの釘を見つけ打ち直した主体) この釘がもう少しで抜けたところだった。	<i>kono kugiga oRkata nukejoQta.</i>
進行	主体動作動詞（他）	食べる	Y	非過去	(主体が昼食を食べているのを見て,想像して) 彼女が昼食を食べている（だろう）。	<i>kanozjoga tjuRsjokuo tabejoru (jaroR).</i>
			Y	過去	(主体が昼食を食べたのを思い出して) 彼女が昼食を食べた。	<i>kanozjoga tjuRsjokuo tabejoQta.</i>
		漕ぐ	Y	非過去	(主体がなにをしているのか聞かれ) 私は舟を漕いでいる（だろう）。	<i>watasi hune koQgjoru.</i>
			Y	過去	(主体が舟を漕いでいたのを思い出して) 私が舟を漕いでいた。	<i>watasi hune koQgjoQta.</i>
		踊る	Y	非過去	(彼がなにをしているのか聞かれ) 彼はダンスを踊っている。	<i>karewa dansu odoQrjoru.</i>

		Y	過去	(主体がダンスを踊っていたのを思い出して) 彼はダンスを踊っていた。	<i>karewa dansu odoQrjoQta.</i>
主体動作 動詞 (自動詞)	泳ぐ	Y	非過去	(主体がプールで泳いでいるのを見て) 彼女がプールで泳いでいる/泳いでいるだろう。	<i>kanozjoga puRrude ojoQgjoru/ojoQgjoruw a.</i>
		Y	過去	(主体がプールで泳いでいたのを思い出して) 彼女がプールで泳いでいた。	<i>kanozjoga puRrude ojoQgjoQta.</i>
動き動詞	飛ぶ	Y>T/Y	非過去	(上空で飛行機が飛んでいるのを見て,想像して) 飛行機が飛んでいる/飛んでいるだろう。	<i>hikoRkiga tonbjoru,tondoru/tonbj orujaronaR.</i>
		Y	過去	(上空で飛行機が飛んでいるのを思い出して) 飛行機が飛んでいた。	<i>hikoRkiga tonbjQta.</i>
	降る	Y>T/ Y=T	非過去	(家の外で雨が降っているのを見て) 雨が降っている (だろう)。	<i>amega huQrjoru, huQtoru (jaroR) .</i>
		Y>T	過去	(雨が降っていたのを思い出して) 雨が降っていた。	<i>amega huQrjoQta, huQtoQta.</i>
主体動作 客体変化 動詞	開ける	Y	非過去	(父が窓を開けている最中であるのを見て) 父が窓を開けている/開けているだろう。	<i>titiga mado akejoru/akerunkana.</i>
		Y	過去	(父が窓を開けていたのを思い出して) 父が窓を開けていた。	<i>titiga madoo akejoQta.</i>
	磨く	Y S>Y	非過	(石を磨いている主体がなにをしているのか	<i>watasiwa isio migaQkjoru (jaroR)</i>

				去	聞かれ) 私は石を磨いている (だろう)。	/migakunkana.
			Y	過去	(磨いていたのを思い出して) 私は石を磨いていた。	watasiwa isio migaQkjoQta.
		運ぶ	Y	非過去	(主体がなにをしているのか聞かれて) 私は荷物を運んでいる (だろう)。	watasiwa nimotuo hakonbjoru (jaroR) .
			Y	過去	(荷物を運んでいたのを思い出して) 私は荷物を運んでいた。	watasiha nimotuo hakonbjooQta.
	主体変化動詞 (意志性+)	座る	Y	非過去	(母が椅子に座ろうとしているのを見て) 母が椅子に座りつつある (だろう)。	hahaga isuni suwaQrjoru (jaroR) .
			Y	過去	(座ろうとしていたのを思い出して) 母が椅子に座りつつあった。	hahaga isuni suwaQrjoQta.
	主体変化動詞 (意志性-)	消える	Y	非過去	(ろうそくの火が消えつつあるのを見て) ろうそくの火が消えつつある。	rousokuno higa kiejoru.
			Y	過去	(ろうそくの火が消えつつあったのを思い出して) ろうそくの火が消えつつあった。	rousokuno higa kiejoQta.
	関係動詞	似る	Y	非過去	(顔が似てきている親子を見て) お父さんに似てきている。	otoRsaNni nitekjoru.
	存在動詞	いる	×	非過去	(隣の家に犬がいるのを見て,想像して) 隣の家に犬がいる (だろう)。	tonarino ieni inuga oru (jaroR) .
			×	過	(隣家に犬がいたのを	tonarino ieni inuga

			去	思い出して) 隣の家に 犬がいた。	<i>oQta.</i>	
	ある	S,Y (プリ ンが主 語の場 合 S の み○)	非 過 去	(会議を行っている最 中,行っているのを想像 して) 会議がある (だ ろう)。	<i>kaigiga aru,anzjoru (jaroR) .</i>	
		S,Y (プリ ンが主 語の場 合 S の み○)	過 去	(会議が行われていた のを思い出して) 会議 があった。	<i>kaigiga anzjoQta, aQta.</i>	
心理動詞	考 え る	Y	非 過 去	(目の前で母が献立を 考えている最中) 母が 献立を考えている。	<i>hahaga kondateo kangaejoru.</i>	
		Y	過 去	(献立を考えていたの を思い出して) 母が献 立を考えていた。	<i>hahaga kondateo kanngaejoQta.</i>	
知覚動詞	聞 こ え る	Y	非 過 去	(外から太鼓の音が聞 こえている最中) 太鼓 の音が聞こえている (だろう)。	<i>taikono otoga kikoejoru (jaroR) .</i>	
		Y	過 去	(太鼓の音が聞こえて いたのを思い出して) 太鼓の音が聞こえてい た。	<i>taikono otoga kikoejoQta.</i>	
結 果	動き動詞	飛ぶ	T	非 過 去	(飛行機がフライトを 終えている状況) 飛行 機が飛んでいる。	<i>hikoukiga tondoru.</i>
		T	過 去	(フライトを終えてい たのを思い出して) 飛 行機が飛んでいた。	<i>hikoukiga tondoQta.</i>	
		降る	T	非	(雨がやみ、水たまり	<i>amega huQtoru.</i>

			過去	がある状況) 雨が降り 終わっている。	
		T	過去	(雨が降って終わって いたのを思い出して) 雨が降っていた。	<i>amega huQtoQta.</i>
主体動作 客体変化 動詞	開け る	T	非 過去	(父が窓を開け放して いる状況) 父が窓を開 けている (だろう)。	<i>titiga madoo aketoru (jaroR) .</i>
		T	過去	(窓を開け放している のを思い出して) 父が 窓を開け放していた。	<i>titiga madoo aketoQta.</i>
	落と す	T	非 過去	子供がお金を落として いる。	<i>kodomoga okane otositoru.</i>
			過去	子供がお金を落として いた。	<i>kodomoga okane otositoQta.</i>
主体変化 主体動作 動詞	履く	T	非 過去	父が長靴を履いている (だろう)。	<i>titiga nagagutuo haitoru.</i>
		T	過去	父が長靴を履いてい た。	<i>titiga nagagutuo haitoQta.</i>
主体変化 動詞 (意 志性+)	行く	T	非 過去	父は役所に行ってい (だろう)。	<i>titiwa jakusjoni iQtoru (jaroR) .</i>
		T	過去	父は役所に行ってい た。	<i>titiwa jakusjoni iQtoQta.</i>
	座る	T	非 過去	母が座布団に座ってい る。	<i>hahaga zabutoNni suwaQtoru.</i>
		T	過去	母が座布団に座ってい た。	<i>hahaga zabutoNni suwaQtoQta.</i>
主体変化 動詞 (意 志性-)	死ぬ	T	非 過去	蛇が死んでいる。	<i>hebiga sindoru.</i>
		T	過	昨日蛇が死んでいた。	<i>kinoR hebiga sindoQta.</i>

				去		
		乾く	T	非 過 去	洗濯物が乾いている (だろう)。	<i>sentakumonoga kawaitoru (jaroR) .</i>
			T	過 去	洗濯物が乾いていた。	<i>sentakumonoga kawaitoQta.</i>
	関係動詞	似る	T	非 過 去	彼は父に似ている。	<i>karewa titini nitoru.</i>
				過 去	彼は父に似ていた。	<i>karewa titini nitoQta.</i>
効 力	主体動作 動詞 (他 動詞)	食べ る	T	非 過 去	昨日も中華料理を食べ ているから、今日はや めとく。	<i>kinoR tjuRkarjoRri iQpai tabetorukeN, kjoRwa jametoku.</i>
	主体動作 動詞 (自 動詞)	遊ぶ	T	非 過 去	彼はゲームを 30 分遊ん でいるから、今日はも うできない。	<i>karewa geRmuo sanzjuQpuN asondorukeN, mou kjoRwa dekinai.</i>
		住む	T	非 過 去	太郎は長年フランスに 住んでいるから、フラン ス語が得意だ。	<i>taroRwa naganeN huransuni sundorukara, huransugoga tokuida.</i>
	主体変化 動詞 (意 志性+)	行く	T	過 去	彼は以前仕事でロシア に行っているから、ロシ ア語が分かる。	<i>karewa izeN sigotode rosiani iQtoQtakara, roasiagoga wakaru.</i>
		並ぶ	T	過 去	出した料理が冷めてい るから、客が怒ってい る。	<i>dasita rjoRriga sametoQtakeN, kjakuga okoQta.</i>
	主体変化 動詞 (意 志性-)	落ち る	T	非 過 去	この子は前も椅子から 落ちているから、気を つけて。	<i>kono kowa maemo isukara otitorukeN, kiotukete.</i>
		届く	T	非 過 去	前の合否もすぐ届いて いるから大丈夫だ。	<i>maeno goRhimo sugu todoitorukeN, daizjoRbuda.</i>
	主体動作	塗る	T	非	すぐに薬を塗っている	<i>suguni kusurio</i>

	客体変化動詞			過去	から、悪化しないだろ う。	<i>nuQtorukeN, aQkawa sinaidaroR.</i>
		片付ける	T	非過去	段ボールはとっくに片づけているから掃除はいいよ。	<i>toQkuni danboRru katazuketorujo.</i>
特性	主体動作動詞（自動詞）	通る	T	非過去	高速がここに通っている。	<i>kousokuga kokoni toRQtoru.</i>
	主体変化動詞（意志性-）	崩れる	T	非過去	丸亀城の石垣が崩れている。	<i>marugamezjoRno isigakiga kuzuretoru.</i>
	主体動作 客体変化動詞	吊るす	T	非過去	この家は柿を吊るしている。	<i>kono iewa kaki turusitoru.</i>

意味	動詞種類	動詞例	容認度	時制	状況	例文	調査結果
痕跡	主体動作動詞（他動詞）	燃やす	T	非過去	畑にゴミが落ちていたり、土が黒くなったりしているのを見て	誰かが畑でゴミを燃やしている。	<i>darekaga hatakede gomi mojasitoru.</i>
		飲む	T		リビングの机に空の牛乳パックが置かれている	誰かが牛乳を飲んでいる。	<i>darekaga gjuRnjuRo nondoru.</i>
	主体動作動詞（自動詞）	遊ぶ	T	非過去	公園の砂場で何かを作って遊んだあとがあるのをみて	子供が公園で遊んでいる。	<i>kodomoga kouende asondoru.</i>
			T	過去			<i>kodomoga kouende asondoQta.</i>

				去			
	動き	泣く	T	非過去	目の周りが赤く、頬に涙のあとがある子どもを見て	あら、子供が泣いている。	<i>ara, kodomoga naitoru.</i>
	主体動 作客 体変 化動 詞	焼く	T	非過去	朝、トースターの周りにパンくずが落ちているのを見て	彼がパンを焼いている。	<i>karega pano jaitoru.</i>
		開ける	T	非過去	窓は閉まって いるが雨が吹き込んで部屋が濡れているのを見て	家族が窓を開けている。	<i>kazokuga madoo aketoru.</i>
	主体 変化 動詞 (意 志性 +)	来る	T	非過去	玄関先に知らない人の靴や荷物があるのを見て	お客様が家に来ている。	<i>okjakusanga ieni kitoru</i>
	主体 変化 動詞 (意 志性 -)	枯れる	T	非過去	花のない花壇の周りに枯れた花びらが落ちているのを見て	花壇の花が枯れてい る。	<i>kadaNno hanaga karetoru.</i>
直前	主体 動作 動詞 (他 動 詞)	燃やす	S	非過去	① ごみを集めている ② ドラム缶にゴミを入れている ③ マッチを擦っている ④ 火をゴミに	彼がゴミを燃やそうとしている。	<i>kare gomi mojasunja/ mojasoRtosjoRru.</i>

					つけている		
			Y	非 過 去	⑤ 燃えている ごみを見て	(燃や してい る)	<i>kare gomi mojaQsjiro.</i>
	主体 動作 動詞 (自 動 詞)	泳 ぐ	S	非 過 去	① 水着を着て プール際にい る ② プールに入 っている ③ バタ足をし ている ④ 平泳ぎをし ている	太郎が 泳ごう として いる。	<i>taroR imakara ojogunjana.</i> (①～ ③) <i>/ojogoRtosjoRru.</i> (全て)
			Y	非 過 去	④ 平泳ぎをし ている	(泳い でい る)	<i>taroRga ojoQgjoru.</i>
	動き 動詞	降 る	S	非 過 去	① 空が暗く曇 っている ② 厚い黒い雲 がある時 ③ 空気がじめ じめしている	雨が降 ろうと してい る。	<i>ame hurisoRjana.</i>
			Y	非 過 去	④ 数滴雨粒が 降ってきたと き	(降つ てい る)	<i>amega huQrjoru.</i>
	主体 動作 客体 変化 動詞	開 け る	S	非 過 去	① 窓に向かつ ている× ② 鍵を開けて いる ③ 窓に手をか けている ④ 少しだけ開 けている時	父が窓 を開け ようと してい る。	<i>titi mado</i> <i>akerunkana/akerunja/akejoRtosjoRru.</i>
			Y	非	④ 少しだけ開	(開け	<i>titiga mado akejoru.</i>

				過去	けている時 ⑤ ④より窓が 開けられてい る時	てい る)	
主体 変化 主体 動作 動詞	着 る	S	非 過去	① 箕笥を開け ている× ② 着物を広げ たり持ったり している ③ 肌襦袢を着 ている時 ④ 袖を通した だけの状態 ⑤ 前側をひも で結んだ時	太郎が 着物を 着よう として いる。		<i>taroR kimono kirunja/kijoRtosjoRru.</i>
		Y	非 過去	⑤ 前側をひも で結んだ時	(着て いる)		<i>taroRga kimono kijoru.</i>
主体 変化 動詞 (意 志性 +)	入 る	S	非 過去	① こたつに歩 いて向かって いる ② 炬燵の前に 座る ③ 足を延ばそ うとする ④ 布団をめく る ⑤ 片足のみ入 れる	母がこ たつに 入ろう として いる。		<i>okaRsaN kotatu hairunkana/hairunjana.</i>
		Y	非 過去	④ 布団をめく る ⑤ 片足のみ入 れる ⑥ 両足入れる	(入っ てい る)		<i>hahaga kotatuni haiQrjoru.</i>
主体	落	S=Y	非	① 机から 1/3	お皿が		<i>osaraga otisoR/oQtjoru.</i>

変化動詞 (意志性一)	ち る		過去	出ている状態 ②落ちるギリ ギリ ③はみ出でい ないが人の腕 がすぐそばに ある	落ちそ うにな ってい る。	
----------------	--------	--	----	--	-------------------------	--

## 付録 2. 調査例文 (M 氏)

次に、M 氏のデータを以下に示す。(〈完成〉の例文は 3 名とも同じものを使用したが、M 氏が違和感を覚えたものは他に記している調査例文から省いている。)

意味	動詞の種類	動詞例	調査例文	調査結果
完成	主体動作動詞（他動詞）	食べる	あ、犬が餌を食べた。	<i>a, inuga esao tabeta.</i>
			私は 9 時に夕食を食べる。	<i>watasiwa kuzini juRsjokuo tabeta.</i>
	主体動作動詞（自動詞）	泳ぐ	太郎は 50 メートル泳いだ。	<i>taroRwa gozjuRmeRtoru ojoida.</i>
			明日太郎は川で泳ぐ。	<i>asita taroRwa kawade ojogu.</i>
		住む	来年花子は福岡に住む。	<i>raineN hanakowa hukuokani sumu.</i>
	動き動詞	飛ぶ	あ、飛行機が飛んだ。	<i>a, hikoRkiga tonda.</i>
		降る	さつき雨が降ったよ。	<i>saQki amega huQtajo.</i>
			明日雨が降るよ。	<i>asita amega hurujo.</i>
	主体動作客体変化動詞	編む	昨日花子は手袋を編んだ。	<i>kinoR hanakowa tebukuroo anda.</i>
			花子は手袋を編むそうだ。	<i>hanakowa tebukuroo amusoRda.</i>
		植える	父が庭に桜を植えた。	<i>titiga niwani sakurao ueta.</i>
			明日父が庭に桜を植える。	<i>asita titiga niwani sakurao ueru.</i>
	主体変化主体動作動詞	着る	明日太郎は着物着るそだ。	<i>asita taroRwa kimono kirusoRda.</i>
	主体変化動詞（意志性 +）	行く	さつき彼は職場に行つた。	<i>saQki karewa sjokubani iQta.</i>
			明日彼は東京に行く。	<i>asita karewa toRkjoRni iku.</i>
		帰る	昨日彼は家に帰った。	<i>kinoR karewa ieni kaeQta.</i>
			明日太郎が家に帰る。	<i>asita taroRga ieni kaeru.</i>
	主体変化動	枯れる	先週庭の桜が枯れた。	<i>sensjuR niwano sakuraga</i>

	詞（意志性一）				<i>kareta.</i>
			この花はすぐ枯れる。		<i>kono hanawa sugu kareru.</i>
		炊ける	さっきご飯が炊けた。		<i>saQki gohanga taketa.</i>
	心理動詞	思う	私は家に帰ろうと思う。		<i>watasiwa ieni kaeroRto omou.</i>
	知覚動詞	聞こえる	太鼓の音が聞こえる。		<i>taikono otoga kikoeru.</i>
			太鼓の音が聞こえた。		<i>taikono otoga kikoeta.</i>
	特性動詞	切れる	この包丁はよく切れる。		<i>kono hoRtjoRwa joku kireru.</i>
			この包丁はよく切れた。		<i>kono hoRtjoRwa joku kireta.</i>
		吹ける	やっと笛が吹ける。		<i>jaQto huega hukeru.</i>
			やっと笛が吹けた。		<i>jaQto huega huketa.</i>

意味	動詞の種類	動詞例	容認度	時制	調査例文	調査結果
反復習慣	主体動作動詞	鳴らす	S=Y>T	非過去	彼はよく指を鳴らしている。	<i>karewa joR jubio narasu, naraQschoru, narasitoru (jaroR) .</i>
			S=Y>T	過去	彼はよく指を鳴らしていた。	<i>karewa joR jubio narasita, naraQsjoQta, narasitoQta.</i>
		待つ	S=Y	非過去	あの犬は毎日飼い主を待っている。	<i>ano inu mainiti kainusio matu, maQtjoru (jaroR) .</i>
			S=Y	過去	あの犬は毎日飼い主を待っていた。	<i>ano inu mainiti kainusio maQta, maQtjoQta.</i>
	主体動作動詞（自動詞）	遊ぶ	S=Y	非過去	子供がよくここで遊んでいる。	<i>kodomoga joku kokode asobu, asonbjoru (jaroR) .</i>
			S=Y	過去	子供がよくここで遊	<i>kodomoga joku kokode</i>

					んでいた。	asonjoQta.
		通う	S=Y	非過去	私は毎週ギター教室に通っている。	<i>watasi maisjuR gitaRkjoRsituni kajou, kajojoru (jaroR) .</i>
			S=Y	過去	私は毎週ギター教室に通っていた。	<i>watasiwa maisjuR gitaRkjoRsituni kajoijoQta, kajoQta.</i>
	動き動詞	吹く	S=Y	非過去	ここはいつも強い風が吹いている。	<i>kokowa itumo tujoi kazega huku, huQkjoru.</i>
			S=Y	過去	ここはいつも強い風が吹いていた。	<i>kokowa itumo tujoi kazega huita, huQkjoQta.</i>
	主体動作客体変化動詞	開ける	S=Y	非過去	毎朝彼女が窓を開けている（だろう）。	<i>maiasa kanojoga madoo akeru , akejoru (jaroR) .</i>
			S=Y	過去	毎朝彼女が窓を開けていた。	<i>maiasa kanojoga madoo aketa, akejoQta.</i>
		掘る	S=Y	非過去	あの犬は毎日庭を掘っている。	<i>ano inuwa mainiti niwao horu, honrjoru.</i>
			S=Y	過去	あの犬は毎日庭を掘っていた。	<i>ano inuwa mainiti niwao hoQta, honrjoQta.</i>
	主体変化主体動作動詞	履く	S=Y	非過去	彼はいつも同じ靴を履いている（だろう）。	<i>karewa itumo onazi kutuo haku, haQkjoru (jaroR) .</i>
			S=Y	過去	彼はいつも同じ靴を履いていた。	<i>karewa itumo onazi kutuo haita, haQkjoQta.</i>
	主体変化動詞（意志性+）	行く	S=Y	非過去	毎朝 7 時に彼は学校に行っている（だろう）。	<i>maiasa sitizini karewa gaQkouni iku, iQkjoru (jaroR) .</i>

			S=Y	過去	毎朝 7 時に彼は学校に行っていた。	<i>maiasa sitizini karewa gaQkouni iQta, iQkjoQta.</i>
	主体変化動詞 (意志性一)	消える	S=Y		いつもすぐガスの火が消えている。	<i>itumo sugu higa kieru, kiejoru.</i>
			S=Y		いつもすぐガスの火が消えていた。	<i>itumo sugu higa kieta, kieQoQta.</i>
		落ちる	S=Y	非過去	秋になると銀杏が落ちている（だろう）。	<i>akini naruto giNnaNga otiru, oQtjoru (jaroR) .</i>
			S=Y	過去	秋になると銀杏が落ちていた。	<i>akini naruto giNnaNga otita, oQtjoQta.</i>
	心理動詞	怒る	S=Y>T	非過去	彼は毎日後輩に怒っている。	<i>karewa mainiti kouhaini okoru, okoQrjoru, okoQtoru.</i>
			S=Y>T	過去	彼は毎日後輩に怒っていた。	<i>karewa mainiti kouhaini okoQta, okoQrjoQta, okoQtoQta.</i>
			S=Y T×	非過去	彼は毎日後輩を怒っている。	<i>karewa mainiti kouhai okoru, okoQrjoru.</i>
			S=Y T×	過去	彼は毎日後輩を怒っていた。	<i>karewa mainiti kouhai okoQta, okoQrjoQta.</i>
	知覚動詞	見える	S=Y	非過去	ベランダからいつも飯野山が見えている。	<i>berandakara itumo iinojamaga mieru, miejoru.</i>
			S=Y	過去	ベランダからいつも飯野山が見えていた。	<i>berandakara itumo iinojamaga mieta, miejoQta.</i>
未遂	主体動作動詞 (他動詞)	飲む	Yのみ ○	過去	(牛乳を飲もうとして誰かに止められた主体) 私は牛乳を(もう少しで)飲む	<i>watasiga oRkata gjuRnjuRo noNmjoQta.</i>

					ところだった。	
	主体動 作動詞 (自動 詞)	走る	Y	過去	(走ろうとしていた 生徒が結局走らなか った) 生徒がもう少 しで廊下を走るとこ ろだった。	<i>seitoga roRkao oRkata hasiQrjoQta.</i>
		通う	Y	過去	(通おうとしたもの の、結局一度きりし か行かなかつた主 体) 私はもう少しで パチンコ屋に通うと ころだった。	<i>watasiwa oRkata patinkojani kajoijoQta.</i>
	動き動 詞	燃え る	Y	過去	(ボヤ騒ぎがあつた ものの結局燃えはし なかつた) 家がもう 少しで燃えるところ だった。	<i>iega oRkata moejoQta.</i>
		降る	Y	過去	(曇り空で予報も雨 だが結局降らなかつ た状況) 雨がもう少 しで降るところだつ た。	<i>oRkata amega huQrjoQta.</i>
	主体変 化主体 動作動 詞	被る	Y	過去	(壊れたヘルメット を被ろうとして誰か に止められた主体) 私はもう少しで壊れ たヘルメットを被る ところだった。	<i>watasiwa oRkata kowareta herumeQto kabuQrjoQta.</i>
	主体動 作客体 変化動 詞	落と す	Y	過去	(落ちそうになつた 茶碗をつかんだ話し 手) 子供がもう少 しで茶碗を落とすとこ ろだった。	<i>kodomoga oRkata tjawaN otoQsjoQta.</i>
		運ぶ	Y	過去	(皿を運ぼうとした ら第三者に止められ	<i>watasi oRkata rjoRri hakonbjoQta.</i>

					た主体) 私はもう少しで料理を運ぶところだった。	
	主体変化動詞 (意志性+)	行く	Y	過去	(玄関を出ようとして忘れ物に気づいた主体を見て) 子供がもう少しで学校に行くところだった。	<i>kodomoga oRkata gaQkoRni iQkjoQta.</i>
		捕まる	Y	過去	(警察の追っ手を振り切った主体) 太郎はもう少しで警察に捕まるところだった。	<i>taroRwa oRkata keisatuni tukamaQrjoQta.</i>
	主体変化動詞 (意志性-)	溶ける	Y	過去	(外に少し出されていたアイスを見て) アイスがもう少しで溶けるところだった。	<i>aisuga oRkata tokejoQta.</i>
		抜ける	Y	過去	(取れかけの釘を見つけ打ち直した主体) この釘がもう少しで抜けるところだった。	<i>kugiga oRkata nukejoQta.</i>
進行	主体動作動詞 (他動詞)	食べる	Y	非過去	(主体が昼食を食べているのを見て,想像して) 彼女が昼食を食べている(だろう)。	<i>kanozjoga tjuRsjokuo tabejoru, (jaroR) .</i>
			Y	過去	(主体が昼食を食べていたのを思い出して) 彼女が昼食を食べていた。	<i>kanozjoga tjuRsjokuo tabejoQta.</i>
	主体動作動詞 (自動)	泳ぐ	Y	非過去	(主体がプールで泳いでいるのを見て,想像して) 彼女がプー	<i>kanozjoga puRrude ojoQgjoru (jaroR) .</i>

	詞)				ルで泳いでいる（だ ろう）。	
			Y>T	過去	（主体がプールで泳 いでいたのを思い出 して）彼女がプール で泳いでいた。	<i>kanozjoga puRrude ojoQgjoQta, ojoidoQta.</i>
	動き動 詞	飛ぶ	Y	非過 去	（上空で飛行機が飛 んでいるのを見て， 想像して）飛行機が 飛んでいる/飛行機が 飛んでいるだろう。	<i>hikoRkiga toQbjoru /tonbjorujaroR.</i>
			Y	過去	（上空で飛行機が飛 んでいたのを思い出 して）飛行機が飛ん でいた。	<i>hikoRkiga tonbjojta.</i>
		降る	Y>T	非過 去	（外で雨が降ってい るのを見て，想像し て）雨が降っている (だろう)。	<i>amega huOrjoru (jaroR) / huQtoru.</i>
			Y>T	過去	（雨が降っていたの を思い出して）雨が 降っていた。	<i>amega huOrjoQta/huQtoQta.</i>
	主体動 作客体 変化動 詞	開け る	Y>T S	非過 去	（誰が窓を開けてい るのか聞かれ）父が 窓を開けている/開け ているだろう。	<i>titiga madoo akejoru, aketoru/ akerujaroR.</i>
			Y>T	過去	（窓を開けていたの を思い出して）父が 窓を開けていた。	<i>titiga madoo akejoQta, aketoQta.</i>
		磨く	Y/ Y>T	非過 去	（主体がなにをして いるのか聞かれ）私 は石を磨いている/磨 いているだろう。	<i>watasiwa isio migaQkjoru/ migaQkjurujaroR, migaitorujaroR.</i>
			Y>T/Y	非過 去	（彼がなにをしてい るのか聞かれ）彼は	<i>karega isio migaQkjoru, migaitoru/</i>

					石を磨いている/磨いているだろう。	<i>migaQkjurujaroR.</i>
			Y	過去	(主体が石を磨いていたのを思い出して) 私が石を磨いていた。	<i>watasiga isio</i> <i>migaQkjoQta.</i>
			Y>T	過去	(彼が石を磨いていたのを思い出して) 彼が石を磨いていた。	<i>karega isio</i> <i>migaQkjoQta,</i> <i>migaitoQta.</i>
	主体変化動詞 (意志性+)	座る	Y	非過去	(母が椅子に座ろうとしているのを見て) 母が椅子に座りつつある (だろう)。	<i>hahaga suwaQrjoru</i> ( <i>jaroR</i> ) .
			Y	過去	(母が椅子に座ろうとしていたのを思い出して) 母が椅子に座りつつあった。	<i>hahaga suwaQrjoQta.</i>
		帰る	Y	非過去	(学校から帰っている子供のことを聞かれ, 帰っているのを想像して) 子供が学校から帰っている (だろう)。	<i>kodomoga gaQkoRkara</i> <i>kaeQrjoru</i> ( <i>jaroR</i> ) .
			Y	過去	(子供が学校から帰っていたのを思い出して) 子供が学校から帰っていた。	<i>kodomoga gaQkoRkara</i> <i>kaeQrjoQta.</i>
	主体変化 (意志性-)	消える	Y	非過去	(ろうそくの火が消えつつあるのを見て) ろうそくの火が消えつつある。	<i>rousokuga kiejoru.</i>
			Y	過去	(ろうそくの火が消えつつあったのを思	<i>rousokuga kiejoQta.</i>

					い出して) ろうそく の火がきえつつあつ た。	
		落ち る	Y	非過 去	(落ちていく茶碗を 見て) 茶碗が落ちて いる。	<i>tjawanga oQtjoru.</i>
			Y	過去	(茶碗がおちていっ たのを思い出して) 茶碗が落ちていた。	<i>tjawanga oQtjoQta.</i>
	関係動 詞	似る	Y	非過 去	(顔が似てきている 親子を見て) お父さ んに似てきてている。	<i>otoRsaNni nitekijoruna.</i>
	存在動 詞	いる	S	非過 去	(隣家に犬がいるの をみて) 隣の家に犬 がいる	<i>tonarino ieni inuga oru.</i>
			S	過去	(隣家に犬がいたの を思い出して) 隣の 家に犬がいた。	<i>tonarino ieni inuga oQta.</i>
		ある	S, Y (プリ ンが主 語の場 合 S の み○)	非過 去	(会議を行っている 最中, 行なっているの を想像して) 会議が ある (だろう)。	<i>kaigiga aru, anzjoru (jaroR) .</i>
			S, Y (プリ ンが主 語の場 合 S の み○)	過去	(会議が行なわれて いたのを思い出し て) 会議があった。	<i>kaigiga anzjoQta.</i>
	心理動 詞	考 え る	Y	非過 去	(目の前で母が献立 を考えている最中) 母が献立を考えてい る。	<i>hahaga kondateo kangaejoru.</i>
			Y	過去	(母が献立を考 えて)	<i>hahaga kondateo</i>

					いたのを思い出して) 母が献立を考えていた。	<i>kangaejoQta.</i>
	知覚動詞	聞こえる	Y	非過去	(外から太鼓の音がして,太鼓の音が聞こえるのを想像して) 太鼓の音が聞こえている (だろう)。	<i>taikono otoga kikoejoru (jaaroR)</i> .
			Y	過去	(太鼓の音が聞こえていたのを思い出していた)	<i>taikono otoga kikoejoQta.</i>
結果	動き動詞	飛ぶ	T	非過去	(飛行機がフライトを終えている状況) 飛行機が飛んでいる。	<i>hikoRkiga tondoru.</i>
			T	過去	(フライトを終えていたのを思い出していた) 飛行機が飛んでいた。	<i>hikoRkiga tondoQta.</i>
		降る	T	非過去	(雨がやみ、水たまりがある) 雨が降り終わっている。	<i>amega huQtoru.</i>
			T	過去	(雨が降り終わっていたのを思い出していた) 雨が降っていた。	<i>amega huQtoQta.</i>
	主体動作客体変化動詞	開ける	T	非過去	(父が窓を開け放している状況) 父が窓を開けている (だろう)。	<i>titiga madoo aketoQta.</i>
			T	過去	(窓を開け放しているのを思い出して) 父が窓を開けた。	<i>titiga madoo akeQtoQta.</i>
		落と	T	非過	子供がお金を落とし	<i>kodomoga okane</i>

		す		去	ている。	otositoru.
			T	過去	子供がお金を落としていた。	<i>kodomoga okane otositoQta.</i>
	主体変化主体動作動詞	履く	T	非過去	父が長靴を履いている（だろう）。	<i>titiga nagagutu haitoru (jaroR) .</i>
			T	過去	父が長靴を履いていた。	<i>titiga nagagutu haitoQta.</i>
	主体変化動詞（意志性+）	行く	T	非過去	父は役所に行っている（だろう）。	<i>titiha jakusjoni iQtoru (jaroR) .</i>
			T	過去	父は役所に行ってた。	<i>titiwa jakusjoni iQtoQta.</i>
		座る	T	非過去	母が座布団に座っている（だろう）。	<i>hahaga zabutoNni suwaQtoru (jaroR) .</i>
			T	過去	母が座布団に座っていた。	<i>hahaga zabutoNni suwaQtoQta.</i>
	主体変化動詞（意志性-）	死ぬ	T	非過去	蛇が死んでいる。	<i>hebiga sindoru.</i>
			T	過去	昨日蛇が死んでいた。	<i>kinoR hebiga sindoQta.</i>
		乾く	T	非過去	洗濯物が乾いている（だろう）。	<i>sentakumonoga kawaitoru (jaroR) .</i>
			T	過去	洗濯物が乾いていた。	<i>sentakumonoga kawaitoQta.</i>
	関係動詞	似る	T	非過去	彼は父に似ている。	<i>karewa titini nitoru.</i>
			T	過去	彼は父に似ていた。	<i>karewa titini nitoQta.</i>
効力	主体動作動詞	食べる	T	非過去	昨日も中華料理を食べているから、今日はやめとく。	<i>kinoRmo tjuRka tabetorukeN, kjoRwa jametoku.</i>

	主体動 作動詞 (自動 詞)	遊ぶ	T	非過 去	彼はゲームを 30 分遊 んでいるから、今日はもうできない。	<i>karewa sanzjuQpuN asondorukara, kjoRwa mou dekinai.</i>
		住む	T	非過 去	太郎は長年フランス に住んでいるから、 フランス語が得意 だ。	<i>taroRwa naganeN huransuni sundorukara, huransugoga tokuida.</i>
	主体変 化動詞 (意志 性+)	行く	T	非過 去	彼は以前仕事でロシ アに行っているか ら、ロシア語が分か る。	<i>karewa izeN sigotode rosiani iQtorukara, rosiagoga wakaru.</i>
		来る	T	過去	彼は英会話教室にき ていたから英語がで きる。	<i>karewa eikaiwakjoRsituni kitoQtakara, eigoga dekiru.</i>
	主体変 化動詞 (意志 性-)	落ち る	T	非過 去	この子は前も椅子か ら落ちているから、 気をつけて。	<i>konokowa maemo isukara otitorukara, kiotukete.</i>
		積も る	T	非過 去	前も雪がかなり積も っているから準備が 必要だ。	<i>maemo jukiga kanari tumoQtorukara, zjunbiga hitujouda.</i>
	主体動 作客体 変化動 詞	開け る	T	非過 去	ずっと窓を開けてい るから蚊が部屋にい る。	<i>zuQto madoo aketorukara, kaga hejani iru.</i>
		片づ ける	T	非過 去	段ボールはとっくに 片づけているから掃 除はいいよ。	<i>danboRruwa kataduketorukara, souziwa hujoRda.</i>
特性	主体動 作動詞 (自動 詞)	通る	T	非過 去	高速がここに通って いる。	<i>kousokuga kokoni toRQtoru.</i>
	主体変	崩れ	T	非過	丸亀城の石垣が崩れ	<i>marugamezjoRno</i>

	化動詞 (意志性一)	る		去	ている。	<i>isigakiga kuzuretoru.</i>
	主体動作客体 変化動詞	吊るす	T	非過去	この家は柿を吊るしている。	<i>kono iewa kakio turusitoru.</i>

意味	動詞の種類	動詞例	容認度	時制	状況	例文	調査結果
痕跡	主体動作動詞 (他動詞)	燃やす	T	非過去	畑にゴミが落ちていたり、土が黒くなったりしているのを見て	誰かが畑でゴミを燃やしている。	<i>darekaga hatakedo gomi mojasitoru.</i>
		飲む	T	非過去	リビングの机に空の牛乳パックが置かれている。	誰かが牛乳を飲んでいる。	<i>darekaga gjuRnjuR nondoru.</i>
	主体動作動詞 (自動詞)	遊ぶ	T	非過去	公園の砂場で何かを作つて遊んだあとがあるのを見て	子供が公園で遊んでいる。	<i>kodomoga kouende asondoru.</i>
	動き動詞	泣く	T	非過去	目の周りが赤く、頬に涙のあとがある子どもを見て	あら、子供が泣いている。	<i>ara, kodomoga naitoru.</i>
	主体動作客体 変化動詞	焼く	T	非過去	朝、トースターの周りにパンくずが落ちているのを見て	彼がパンを焼いている。	<i>karega pan jaitoru.</i>
		開ける	T	非過去	窓は閉まっているが雨が吹き込んで部屋が濡れているのを見て	家族が窓を開けている。	<i>kazokuga mado aketoru.</i>
	主体変	来る	T	非	玄関先に知らな	お客様が家に	<i>dareka</i>

	化動詞 (意志性+)		過去	い人の靴や荷物 があるのを見て	来ている。	<i>okjakusanga kitoru.</i>
	主体変化動詞 (意志性-)	枯れる	T 非過去	花のない花壇の 周りに枯れた花 びらが落ちてい るのを見て	花壇の花が枯れ ている。	<i>kadaNno hanaga karetoru.</i>
直前	主体動作動詞 (他動詞)	燃やす	S 非過去	① ごみを集めて いるとき ② ごみを集め終 わっている時 ③ マッチで火を つける寸前	彼がゴミを燃や そうとしてい る。	<i>karega gomi mojasunkana.</i>
			Y 非過去	④ マッチで火を つける寸前	(燃やしてい る)	<i>karega gomi mojaQsjoru.</i>
	主体動作動詞 (自動詞)	泳ぐ	S 非過去	① プールサイド を歩いている時 ② プールサイド で飛び込む寸前 ③ プールの中 ④ バタ足をして いる	太郎が泳ごうと している。	<i>taroRga ojogunkana.</i>
			Y 非過去	⑤ クロールをし ている時	(泳いでいる)	<i>taroRga ojoQgjoru.</i>
	動き動詞	降る	S 非過去	① 曇っている時 × ② 黒い雲が出て いる時 ③ じめじめして きたとき ④ 数滴雨粒が降 ってきたとき	雨が降ろうとし ている。	<i>amega huQtekisoRjana, hurunkana.</i>
			Y 非	⑤ ザーザーと降	(雨が降ってい	<i>amega</i>

				過去	ている時	る)	<i>huQrjoru.</i>
主体動作 客体 変化動 詞	開け る	S	非 過 去	① 窓へと向かつ ている時 ② 鍵を開けた時 ③ 窓に手をかけ た時	父が窓を開けよ うとしている。		<i>mado akerunkana.</i>
		Y	非 過 去	② 鍵を開けた時 ③ 窓に手をかけ た時 ④ 窓を開け始め た時	(開けている)		<i>titiga mado akejoru.</i>
主体変 化主体 動作動 詞	着る	S	非 過 去	① 篠箪笥を開けて いる時 ② 肌襦袢を着て いる時 ③ 着物を広げ、 持っているとき	太郎が着物を着 ようとしてい る。		<i>taroR kimono kirunkana.</i>
		Y	非 過 去	①と②は× 以下2つは○ ③ 着物を広げ、 持っている時 ④ 袖を通してい る時	(着物を着てい る)		<i>taroRga kimono kijoru.</i>
主体変 化動詞 (意志 性+)	入る	S	非 過 去	① 灰燼へ向かつ ている時 ② 灰燼の傍に座 った時 ③ 布団をめくつ た時 ④ 片足を入れた 時	母がこたつに入 ろうとしてい る。		<i>okaRsaN kotatuni hairunkana.</i>
		Y	非 過 去	①、②× ③~⑤は○ ⑤両足を入れた	(入っている)		<i>hahaga kotatuni haiQrjoru.</i>

					時		
	主体変化動詞 (意志性ー)	落ちる	S	非過去	① 皿の半分以上が机から出ている時 ② 人の腕が当たりそうな程近くにある時	皿が落ちそうになっている。	<i>a, saraga otirujo.</i>
			Y	非過去	①は○ ②は× ③ テーブルから落ちている時	(落ちている)	<i>saraga oQtjoru.</i>

### 付録 3. 調査例文 (H 氏)

最後に H 氏のデータを以下に示す。

意味	動詞の種類	動詞例	調査例文	調査結果
完成	主体動作動詞（他動詞）	食べる	あ、犬が餌食べた。	<i>a, inuga esa tabeta.</i>
			私は 9 時に夕食を食べる。	<i>watasiwa kuzini juRsjokuo taberu.</i>
	主体動作動詞（自動詞）	泳ぐ	あ、犬が泳いだ。	<i>a, inuga ojoida.</i>
			太郎は 50 メートル泳いだ。	<i>taroRwa gozjuRmeRtoru ojoida.</i>
			明日太郎は川で泳ぐ。	<i>asita taroRwa kawade ojogu.</i>
		住む	3 年花子は福岡に住んだ。	<i>saNneN hanakowa hukuokani sunda.</i>
			来年花子は福岡に住む。	<i>raineN hanakowa hukuokani sumu.</i>
	動き動詞	飛ぶ	あ、飛行機が飛んだ。	<i>a, hikoRkiga tonda.</i>
		降る	さっき雨が降ったよ。	<i>saQki amega huQtajo.</i>
			明日雨が降るよ。	<i>asita amega hrujo.</i>
	主体動作客体変化動詞	編む	昨日花子は手袋を編んだ。	<i>kinoR hanakowa tebukuroo anda.</i>
			明日花子は手袋を編んだ。	<i>asita hanakowa tebukuroo anda.</i>
		植える	父が庭に桜を植えた。	<i>titiga niwani sakurao ueta.</i>
			明日父が庭に桜を植える。	<i>asita titiga niwani sakurao ueru.</i>
	主体変化主体動作動詞	着る	明日太郎は着物を着るそうだ。	<i>asita taroRwa kimonoo kirusoRda.</i>
			太郎はさっきスーツを着た。	<i>taroRwa saQki suRtuo kita.</i>
	主体変化動	行く	さっき彼は職場に行った。	<i>saQki karewa sjokubani</i>

	詞 (意志性 +)				<i>iQta.</i>
			明日彼は東京に行く。		<i>asita karewa toRkjoRni iku.</i>
		帰る	昨日彼は家に帰った。		<i>kinoR karewa ieni kaeQta.</i>
			明日太郎が家に帰る。		<i>asita taroRga ieni kaeru.</i>
	主体変化動詞 (意志性 -)	枯れる	先週庭の桜が枯れた。		<i>sensjuR niwano sakuraga kareta.</i>
			この花はすぐ枯れる。		<i>kono hanawa sugu kareru.</i>
		炊ける	さつきご飯が炊けた。		<i>saQki gohanga taketa.</i>
			6時にご飯が炊ける。		<i>rokuzini gohanga takeru.</i>
	心理動詞	思う	私は家に帰ろうと思う。		<i>watasiwa ieni kaeroRto omou.</i>
	知覚動詞	聞こえる	太鼓の音が聞こえる。		<i>taikono otoga kikoeru.</i>
			太鼓の音が聞こえた。		<i>taikono otoga kikoeta.</i>
	特性動詞	切れる	この包丁はよく切れる。		<i>kono hoRtyoRwa joku kireru.</i>
			この包丁はよく切れた。		<i>kono hoRtjoRwa joku kireta.</i>
		吹ける	やっと笛が吹ける。		<i>jaQto huega hukeru.</i>
			やっと笛が吹けた。		<i>jaQto huega huketa.</i>

意味	動詞の種類	動詞例	容認度	時制	調査例文	調査結果
反復習慣	主体動作動詞 (他動詞)	鳴らす	S=Y>T	非過去	彼はよく指を鳴らしている (だろう)。	<i>karewa mainiti jubio narasu, naraQschoru, narasitoru (jaroR) .</i>
			S=Y>T	過去	彼はよく指を鳴らしていた。	<i>karewa mainiti jubio narasita, naraQsjoQta, narasitoQta.</i>
		待つ	S=Y>T	非過去	あの犬は毎日飼い主を待っている (だろう)。	<i>ano inuwa mainiti kainusio matu, maQtchoru, maQtjoQta (jaroR) ..</i>

				過去	あの犬は毎日飼い主を待っていた。	<i>ano inuwa mainiti kainusio maQta, maQtjoQta, maQtoQta.</i>
	主体動作動詞（自動詞）	遊ぶ	S=Y>T	非過去	子供がよくここで遊んでいる（だろう）。	<i>kodomoga joku kokode asobu, asonbjoru, asondoru (jaroR) .</i>
			S=Y>T	過去	子供がよくここで遊んでいた。	<i>kodomoga joku kokode asonda,</i>
		通う	S=Y	非過去	私は毎週ギター教室に通っている。	<i>watasiwa maisjuR gitaRkjoRsituni kajou, kajojoru.</i>
			S=Y	過去	私は毎週ギター教室に通っていた。	<i>watasiwa maisjuR gitaRkjoRsituni kajoQta, kajoijoQta.</i>
	動き動詞	吹く	S=Y>T	非過去	ここはいつも強い風が吹いている。	<i>kono basjowa itumo kazega huku, huQkjoru, huitoru.</i>
			S=Y>T	過去	ここはいつも強い風が吹いていた。	<i>kono basjowa itumo kazega huita, huQkjoQta, huitoQta.</i>
	主体動作客体変化動詞	開ける	S=Y>T	非過去	毎朝彼女が窓を開けている（だろう）。	<i>maiasa kanozjoga madoo akeru, akejoru, aketoru (jaroR) .</i>
			S=Y>T	過去	毎朝彼女が窓を開けていた。	<i>maiasa kanozjoga madoo aketa, akejoQta, aketoQta.</i>
		掘る	S=Y>T	非過去	あの犬はいつも庭を掘っている。	<i>ano inuwa itumo niwao horu, honzjoru, hoQtoru.</i>
			S=Y>T	過去	あの犬はいつも庭を掘っていた。	<i>ano inuwa itumo niwao hoQta, hoQrjoQta, hoQtoQta.</i>
	主体変化主体動作動詞	履く	S=Y=T	非過去	彼はいつも同じ靴を履いている。	<i>karewa itumo onazi kutuo haku, haQkjoru, haitoru.</i>

			S=Y=T	過去	彼はいつも同じ靴を履いていた。	<i>karewa itumo onazi kutuo haita, haQkjoQta, haitoQta.</i>
	主体変化動詞（意志性+）	行く	S=Y	非過去	毎朝 7 時に彼は学校に行っている（だろう）。	<i>maiasha sitizini karewa gaQkoRni iku, iQkjoru (jaroR) .</i>
			S=Y	過去	毎朝 7 時に彼は学校に行っていた。	<i>maiasha sitizini karewa gaQkoRni iQta, iQkjoroQta.</i>
		座る	S=Y=T	非過去	彼は毎日縁側で座っている。	<i>karewa mainiti engawade suwaru, suwanzjoru, suwaQtoru.</i>
			S=Y=T	過去	彼は毎日縁側で座っていた。	<i>karewa mainiti engawade suwaQta, suwanzjoQta, suwaQtoQta.</i>
	主体変化動詞（意志性）	集まる	S=Y	非過去	彼らは毎週部室に集まっている。	<i>karerawa maisjuR busituni atumaru, atumanzjoru.</i>
			S=Y	過去	彼らは毎週部室に集まっていた。	<i>karerawa maisjuR busituni atumaQta, atumanzjoQta.</i>
		落ちる	S=Y	非過去	秋になると銀杏が落ちる（だろう）。	<i>akini naruto giNnanga otiru, oQtjoru (jaroR) .</i>
			S=Y	過去	秋になると銀杏が落ちていた。	<i>akini naruto giNnanga otita, oQtjoQta.</i>
	心理動詞	怒る	S=Y T×	非過去	彼は毎日後輩に怒っている。	<i>karewa mainiti koRhaini okoru, okonzjoru.</i>
			S=Y T×	過去	彼は毎日後輩に怒っていた。	<i>karewa mainiti koRhaini okoQta, okonzjoQta.</i>
			S=Y=T	非過	彼は毎日後輩を怒って	<i>karewa mainiti</i>

				去	いる。	<i>koRhaio okoru, okonzjoru, okoQtoru.</i>
			S=Y=T	過去	彼は毎日後輩を怒って いた。	<i>karewa mainiti koRhaio okoQta, okonzjoQta, okoQtoQta.</i>
	知覚動詞	見え る	S=Y=T	非過 去	ベランダからいつも飯 野山が見えている。	<i>berandakara itumo iinojamaga mieru, miejoru, mietoru.</i>
			S=Y=T	過去	ベランダからいつも飯 野山が見えていた。	<i>berandakara itumo iinojamaga mieta, miejoQta, mietoQta.</i>
未 遂	主体動作 動詞（他 動詞）	飲む	Yのみ ○	過去	(牛乳を飲もうとして 誰かに止められた主 体) 私は牛乳をもう少 しで飲むところだっ た。	<i>watasiwa gjuRnjuRo oRkata noNmjoQta.</i>
	主体動作 動詞（自 動詞）	走る	Y	過去	(走ろうとしていた生 徒が結局走らなかっ た) 生徒がもう少しで 廊下を走るところだっ た。	<i>seitoga oRkata roRkao hasinzjoQta.</i>
		通う	Y	過去	(通おうとしたもの の、結局一度きりしか 行かなかつた主体) 私 はもう少しでパチンコ 屋に通うところだっ た。	<i>watasiwa oRkata patinkojani kajoijoQta.</i>
	動き動詞	燃え る	Y	過去	(ボヤ騒ぎがあつたが 結局燃えなかつた) 家 がもう少しで燃えると ころだつた。	<i>iega oRkata moejoQta.</i>
		降る	Y	過去	(曇り空で予報も雨だ が結局降らなかつた状 況) 雨がもう少しで降	<i>amega oRkata hunzjoQta.</i>

					るところだった。	
	主体変化 主体動作 動詞	被る	Y	過去	(壊れたヘルメットを被ろうとして誰かに止められた主体) 私はもう少しで壊れたヘルメットを被るところだった。	<i>watasiwa oRkata kowareta herumeQtoo kabunzjoQta.</i>
	主体動作 客体変化 動詞	落とす	Y	過去	(落ちそうになった茶碗をつかんだ話し手) 子供がもう少しで茶碗を落とすところだった。	<i>watasiwa oRkata tjawano otoQsjoQta.</i>
		運ぶ	Y	過去	(皿を運ぼうとしたら第三者に止められた主体) 私はもう少しで料理を運ぶところだった。	<i>oRkata rjoRri hakonbjoQta.</i>
		行く	Y	過去	(玄関を出ようとして忘れ物に気づいた主体を見て) 子供がもう少しで学校に行くところだった。	<i>kodomoga oRkata gaQkoR iQkjoQta.</i>
		捕まる	Y	過去	(警察の追っ手を振り切った主体) 太郎はもう少しで警察に捕まるところだった。	<i>taroRwa oRkata keisatuni tukamanzjoQta.</i>
		溶ける	Y	過去	(外に少し出されていたアイスを見て) アイスがもう少しで溶けるところだった。	<i>aisuga oRkata tokejoQta.</i>
		抜ける	Y	過去	(取れ賭けの釘を見つけ打ち直した主体) この釘がもう少しで抜けるところだった。	<i>kugiga oRkata nukejoQta.</i>
進	主体動作	食べ	Y=T	非過	(主体が昼食を食べて	<i>kanozjo tjuRsjoku</i>

行	動詞（他動詞）	る		去	いるのを見て、想像して）彼女が昼食をたべている（だろう）。	<i>tabejoru, tabetoru (jaroR)</i> .
			Y=T	過去	（食べていたのを思い出して）彼女が昼食を食べていた。	<i>kanozjoga juRsjokuo tabejoQta, tabetoQta.</i>
		漕ぐ	Y=T	非過去	（主体が何をしているのか聞かれ）私は舟を漕いでいる（だろう）。	<i>watasiwa huneo kongjoru, koidoru (jaroR)</i> .
			Y=T	過去	（舟を漕いでいたのを思い出して）私は舟を漕いでいた。	<i>watasiwa huneo kongjoQta, koidoQta.</i>
		踊る	Y=T	非過去	（彼が何をしているのか聞かれ）彼はダンスを踊っている。	<i>karewa dansu odonzjoru, odoQtoru.</i>
			Y=T	過去	（彼が踊っていたのを思い出して）彼はダンスを踊っていた。	<i>karewa dansu odonzjoQta, odoQtoQta.</i>
		泳ぐ	Y=T	非過去	（プールで泳いでいる主体を見て）彼女がプールで泳いでいる（だろう）。	<i>kanozjoga puRrude ojoQgjoru, ojoidoru (jaroR)</i> .
			Y=T	過去	（主体がプールで泳いでいたのを思い出して）彼女がプールで泳いでいた。	<i>kanozjoga puRrude ojoQgjoQta, ojidoQta.</i>
		飛ぶ	Y	非過去	（上空で飛行機が飛んでいるのを見て、想像して）飛行機が飛んでいる（だろう）。	<i>hikoRkiga tonbjoru (jaroR)</i> .
			Y	過去	（上空で飛行機が飛んでいたのを思い出して）飛行機が飛んでいた。	<i>hikoRkiga tonbjQta.</i>

		降る	Y=T	非過去	(外で雨が降っているのを見て、想像して) 雨が降っている(だろう)。	<i>amega hunzjoru, huQtoru (jaroR) .</i>
			Y=T	過去	(雨が降っていたのを思い出して) 雨が降っていた。	<i>amega hunzjoQta, huQtoQta.</i>
	主体変化 主体動作 動詞	着替 える	Y>T	非過去	(何をしているのか第三者に聞かれた状況) 私は服を着替えている。	<i>watasiwa hukuo kigaejoru, kigaetoru.</i>
			Y>T	過去	(発話時以前に服を着替えていたのを思い出して) 私は服を着替えていた。	<i>watasiwa hukuo kigaejoQta, kigaetoQta.</i>
	主体動作 客体変化 動詞	開ける	Y=T	非過去	(誰が窓を開けているのか聞かれ) 父が窓を開けている(だろう)。	<i>titiga madoo akejoru, aketoru (jaroR) .</i>
			Y	過去	(誰が窓を開けていたのか思い出して) 父が窓を開けていた。	<i>titiga madoo akejoQta, aketoQta.</i>
		磨く	Y=T	非過去	(主体が何をしているのか聞かれ) 私は石を磨いている(だろう)。	<i>watasiwa isio migaQkjoru, migaitoru (jaroR) .</i>
			Y=T	過去	(石を磨いていたのを思い出して) 私は石を磨いていた。	<i>watasiwa isio migaQkjoQta, migaitoQta.</i>
	主体変化 動詞(意志性+)	座る	Y	非過去	(母が椅子に座ろうとしているのを見て) 母が椅子に座っている。	<i>hahaga isuni suwanzjoru.</i>
			Y	過去	(母が椅子に座ろうとしているのを見て) 母	<i>hahaga isuni suwanzjoQta.</i>

					が椅子に座っていた。	
		帰る	Y=T	非過去	(子供が何をしているのか聞かれた話し手)子供が家に帰りつつある(だろう)。	<i>kodomoga ieni kaenzjoru (jaroR) /kaeQtoru.</i>
			Y	過去	(子供がなにをしていたのか思い出して)子供が家に帰りつつあつた。	<i>kodomoga ieni kaenzjoQta.</i>
	主体変化動詞(意志性一)	消える	Y	非過去	ろうそくの火が消えつたある。	<i>rousokuno higa kiejoru.</i>
			Y	過去	ろうそくの火が消えつたあった。	<i>rousokuno higa kiejoQta.</i>
		積もる	Y	非過去	雪が積もりつつある。	<i>jukiga tumonzjoru.</i>
			Y	過去	雪が積もりつつあつた。	<i>jukiga tumonzjoQta.</i>
	心理動詞	考える	Y=T	非過去	(献立を考えている母を見て)母が献立を考えている。	<i>hahaga kondateo kangaejoru, kangaetoru.</i>
			Y=T	過去	(献立を考えていた母を思い出して)母が献立を考えていた。	<i>hahaga kondateo kangaekoQta, kangaetoQta.</i>
	関係動詞	似る	Y	非過去	(顔が似てきてている親子を見て)お父さんに似てきてている。	<i>otoRsaNni nitekijorune.</i>
	存在動詞	いる	S	非過去	(隣家に犬がいるのを見て)隣の家に犬がいる。	<i>tonarino ieni inuga oru.</i>
			S	過去	(隣家に犬がいたのを思い出して)隣の家に犬がいた。	<i>tonarino ieni inuga oQta.</i>
		ある	S=Y (プリ)	非過去	(会議を行っている最中,行っているのを想像	<i>kaigiga aru, anzjoru (jaroR) .</i>

		ンが主語の場合 S(○)			して) 会議がある/あるだろう。	
		S=Y (プリンが主語の場合 S(○))	過去		(会議が行われていたのを思い出して) 会議があった。	<i>kaigiga anzjoQta.</i>
	知覚動詞	聞こえる	Y=T	非過去	(外で太鼓の音がして) 太鼓の音が聞こえる(だろう)。	<i>taikono otoga kikoejoru, kikoetoru (jaroR).</i>
			Y=T	過去	(太鼓の音が聞こえていたのを思い出して) 太鼓の音が聞こえていた。	<i>taikono otoga kikoejoQta, kikoetoQta.</i>
	特性動詞	泳げる	Y	非過去	(上手に泳ぐ太郎を見て, 想像して) 太郎は上手に泳げている(だろう)。	<i>taroRwa zjoRzuni ojogejoru (jaroR).</i>
			Y	過去	(上手に泳いでいたのを思い出して) 太郎は上手に泳いでいた。	<i>taroRwa zjoRzuni ojogejoQta.</i>
結果	動き動詞	飛ぶ	T	非過去	(飛行機がフライトを終えている状況) 飛行機が飛んでいる。	<i>hikoRkiga tondoru.</i>
			T	過去	(フライトを終えていたのを思い出して) 飛行機が飛んでいた。	<i>hikoRkiga tondoQta.</i>
		降る		非過去	(雨がやみ、水たまりがある) 雨が降っている。	<i>amega huQtoru.</i>
				過去	(雨が降り終わっていたのを思い出して) 雨	<i>amega huQtoQta.</i>

					が降っていた。	
	主体動作 客体変化 動詞	開け る		非過 去	(父が窓を開け放して いる状況) 父が窓を開 けている。(だろ う)。	<i>titiga mado aketoru (jaroR)</i> .
				過去	(窓を開け放している のを思い出して) 父が 窓を開けていた。	<i>titiga mado aketoQta.</i>
		落と す		非過 去	子供がお金を落として いる。	<i>kodomoga okane otositoru.</i>
				過去	子供がお金を落として いた。	<i>kodomoga okane otositoQta.</i>
	主体変化 主体動作 動詞	履く		非過 去	父が長靴を履いている (だろう)。	<i>titiga nagagutuo haitoru (jaroR)</i> .
				過去	父が長靴を履いてい た。	<i>titiga nagagutuo haitoQta.</i>
	主体変化 動詞 (意 志性+)	行く	T	非過 去	父は役所に行っている (だろう)。	<i>titiwa jakusjoni iQtoru (jaroR)</i> .
			T	過去	父は役所に行ってい た。	<i>titiwa jakusjoni iQtoQta.</i>
		出か ける	T	非過 去	母は(今)出かけてい る(だろう)。	<i>hahawa (ima) dekaketoru (jaroR)</i> .
			T	過去	母は出かけていた。	<i>hahawa dekaketoQta.</i>
	主体変化 動詞 (意 志性-)	死ぬ	T	非過 去	ゴキブリが死んでい る。	<i>gokiburiga sindoru.</i>
			T	過去	ゴキブリが死んでい た。	<i>gokiburiga sindoQta.</i>
		乾く	T	非過 去	洗濯物が乾いている。	<i>setakumonoga kawaitoru.</i>
			T	過去	洗濯物が乾いていた。	<i>sentakumonoga kawaiQta.</i>
	関係動詞	似る	T	非過	彼は父に似ている。	<i>karewa titini nitoru.</i>

				去		
			T	過去	彼は父に似ていた。	<i>karewa titini nitoQta.</i>
効力	主体動作動詞（他動詞）	食べる	T	非過去	昨日も中華料理を食べているから、今日はやめとく。	<i>kinoRmo tjuRka tabetorukara, kjoRwa jametoku.</i>
	主体動作動詞（自動詞）	遊ぶ	T	非過去	彼はゲームを 30 分遊んでいるから、今日はもうできない。	<i>karewa sanzjuQpuN asondorukara, kjoRwa mou dekinai.</i>
		住む	T	非過去	太郎は長年フランスに住んでいるから、フランス語が得意だ。	<i>taroRwa naganeN huransuni sundorukara, huransugoga tokuida.</i>
	主体変化動詞（意志性+）	行く	T	非過去	彼は以前仕事でロシアに行っているから、ロシア語が分かる。	<i>karewa izeN sigotode roasiani iQtorukara, rosiagoga wakaru.</i>
		来る	T	非過去	彼は英会話教室に来ているから英語ができる。	<i>karewa eikaiwakjoRsituni kitorukara, eigoga dekiru.</i>
	主体変化主体動作動詞	着る	T	非過去	太郎は学生の時着物を着ているから、着方が分かる。	<i>taroRwa gakuseino toki kimonoo kitorukara, kikataga wakaru.</i>
	主体変化動詞（意志性-）	落ちる	T	非過去	この子は前も椅子から落ちているから気をつけて。	<i>kono kowa maemo isukara otitorukara, kiotukete.</i>
	主体動作客体変化動詞	開ける	T	非過去	ずっと窓を開けているから、蚊が部屋にいる。	<i>zuQto madoo aketorukara, kaga haiQtoru.</i>
		片づける	T	非過去	段ボールはとっくに片付けているから掃除はいいよ。	<i>sudeni danboRruo kataduketorukara, mou iijo.</i>
特性	主体動作動詞（自動詞）	通る	T	非過去	高速がここに通っている。	<i>kousokuga kokoni toRQtoru.</i>
	主体変化	崩れ	T	非過去	丸亀城の石垣が崩れて	<i>marugamezjoRno</i>

	動詞（意志性一）	る		去	いる。	<i>isigakiga kuzuretoru.</i>
	主体動作 客体変化 動詞	吊るす	T	非過去	この家は柿を吊るして いる。	<i>kono iewa kakio turusitoru.</i>

意味	動詞の種類	動詞例	容認度	時制	状況	例文	調査結果
痕跡	主体動作動詞 (他動詞)	燃やす	T	非過去	畑にゴミが落ちていたり土が黒くなったりしているのを見て	父がゴミを燃やしている。	<i>titiga gomi mojasitoru.</i>
		飲む	T	非過去	リビングの机に空の牛乳パックが置かれている。	誰かが牛乳を飲んでいる。	<i>darekaga gjuRnjuR nondoru.</i>
	主体動作動詞 (自動詞)	遊ぶ	T	非過去	公園の砂場で何かを作って遊んだあとがあるのを見て	子供が公園で遊んでいる。	<i>kodomoga koRende asondoru.</i>
	動き動詞	泣く	T	非過去	目の周りが赤く、頬に涙のあとがある子どもを見て	あら、子供が泣いている。	<i>ara, kodomoga naitoru.</i>
	主体動作客体変化動詞	焼く	T	非過去	朝、トースターの周りにパンくずが落ちているのを見て	彼がパンを焼いている。	<i>karega pano jaitoru.</i>
		開ける	T	非過去	窓は閉まっているが雨が吹き込んで部屋が濡れている	家族が窓を開けている。	<i>kazokuga madoo aketoru.</i>

						のを見て		
	主体変化動詞 (意志性+)	来る	T	非過去	玄関先に知らない人の靴や荷物があるのを見て	お客様が家に来ている。	<i>okjakusanga ieni kitoru.</i>	
	主体変化動詞 (意志性-)	枯れる	T	非過去	花のない花壇の周りに枯れた花びらが落ちているのを見て	花壇の花が枯れている。	<i>kadaNno hanaga karetoru.</i>	
直前	主体動作動詞 (他動詞)	燃やす	S, Y	非過去	① ごみを集め終わっている時 ② マッチを擦っている時 ③ ゴミに火をつける寸前	彼がゴミを燃やすとしている。	<i>karewa gomi mojasunkana/mojasoRtosjoRru.</i>	
			Y	非過去	④ ゴミに火がついている時	(燃やしている。)	<i>karewa gomi mojaQsjioru.</i>	
	主体動作動詞 (自動詞)	泳ぐ	S, Y	非過去	① プールサイドを歩いている時 ② プールに入る寸前 ③ プールに入っているだけ ④ バタ足をしているとき	太郎がプールで泳ごうとしている。	<i>taroRga ojogunkana/ojogoRtosjoRru.</i> ※前者は①~⑤まで○ (⑤の容認度は低め) 後者は②と③が○	
			Y		①~④× ⑤ クロールをしているとき	(泳いでいる)	<i>taroRga puRrude ojoQgjoru.</i>	
	動き動詞	降る	S	非過去	① 曇っている時 ② 黒い雲が空	雨が降ろうとしている。	<i>amega hurisoRjana.</i>	

					を覆っている時 ③ 空気がじめじめしている時		
		Y	非過去	④ 数滴雨粒が落ちてきたとき	(降っている)		<i>amega hunzjoru.</i>
主体動作客体変化動詞	開ける	S, Y	非過去	① 窓へと向かっている時 ② 鍵を開けている時 ③ 窓に手をかけた時 ④ 窓を少し開け始めた時	父が窓を開けようとしている。		<i>titiga mado akejoRtosjoRru/akerunkana.</i> ※前者は③まで○ 後者は④まで○
		Y	非過去	③と④が○	(開けている)		<i>titiga mado akejoru.</i>
主体変化主体動作動詞	着る	S, Y	非過去	① 篠笛を開けているとき ② 着物を持ったり、広げたりしている時 ③ 肌襦袢を着ている時 ④ 着物を羽織つただけ ⑤ 袖を通したとき	太郎が着物を着ようとしている。		<i>taroRga kimonoo kijoRtosjoRru/kirunkana.</i> ※前者は②~⑤○ (⑤の容認度は低め) 後者は全て○
		Y	非過去	④と⑤が○	(着ている動作有)		<i>taroRga kimono kijoru.</i>
主体変	入	S,	非	① 炬燵へ向か	母がこた		<i>hahaga kotatuni</i>

	化動詞 (意志性+)	る	Y	過去	っている時 ② 傍に座った時 ③ 布団をめくった時 ④ 片足を入れた時	つに入ろうとしている。	<i>hairoRtosjoRru/hairunkana.</i> ※前者は③から⑤ 後者は全て○
			Y	非過去	③~⑤が○ ⑤ 両足を入れた時	(入って いる)	<i>hahaga kotatuni hainzjoru.</i>
	主体変化動詞 (意志性-)	落ちる	S, Y	非過去	① 半分以上机から出ている時 ② 人の腕が近くにある時	お皿が落ちそうになつてゐる。	<i>osaraga otirujo/otikakanzjoru.</i>

